

## 2023年度名古屋外国語大学授業評価アンケート結果総括

FD 委員会作業チーム委員長  
高 梨 芳 郎

2023年度の授業評価アンケート調査は、名古屋外国語大学FD委員会のもとで、原則として学部、大学院、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）の全授業科目を対象にして実施された。実施期間は、学部は2023年12月19日（火）～2024年1月15日（月）、大学院は2023年12月19日（火）～2024年1月15日（月）で、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）は2023年12月5日（火）～2024年12月18日（月）であった。アンケート調査結果は集計され、各教員に結果が知らされ、評価結果について授業者からのアンケートを記述式で提出していただいた。本報告では、今後の授業改善に資する目的で、受講生による授業評価アンケート結果に、授業者からの回答結果も加えて、授業評価結果を総括するものである。なお、授業評価アンケートの項目内容については、「授業科目別評価結果」を参照いただきたい。

### 1. 学生への授業改善アンケート調査結果

#### (1) 回答結果の概要

本授業評価アンケートは、受講者総数 30,054 名（学部 29,481 名、大学院 51 名、国際日本語教育インスティテュート 522 名）を対象に Web システムで実施し、回答総数は 8,487 件（学部 8,228 件、大学院 26 件、国際日本語教育インスティテュート 233 件）で、回収率（回答総数÷受講者総数）は 28%（学部 28%、大学院 51%、国際日本語教育インスティテュート 45%）であった。なお、2022年度の全授業についても Web システムで実施し、回収率（回答総数÷受講者総数）は 35%（学部 35%、大学院 24%、国際日本語教育インスティテュート 13%）であった。

#### (2) 個々の項目ごとの分析結果

##### ①授業満足度について

授業の満足度については、全授業で項目平均値は 4.3（5点法）（学部 4.3、大学院 5.0、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）4.4）であった。参考までに、2022年度の全授業で項目平均値は 4.3（5点法）（学部 4.3、大学院 4.5、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）4.4）であった。

学部については、外国語学部の学科ごとに見ても、英米語学科（専攻）4.3～4.4、フランス語学科 4.4、中国語学科 4.4 で、4 以上の高い満足度の数値であった。現代国際学部についても同様で、学科ごとに見ても、現代英語学科 4.3、グローバルビジネス学科 4.2、国際教養学科 4.4 で高い満足度を示す数値であった。世界共生学部世界共生学科も 4.4 で高い満足度であった。また、世界教養学部では、世界教養学科 4.3、国際日本学科 4.2 の高い満足度であった。科目系列等で見ても、ほぼ総て 4.0 以上の平均値で高い満足度であった。

一方、大学院については、総回答数の約 96%（26 件中 25 件）が 5 の回答であり、項目平均値は 5.0 の数値で、高い満足度が示された。また、国際日本語教育インスティテュー

ト(留学生別科)については、受講者数 522 名に対して回答数は 233 件であったが、総回答数の 90% (205 件) 近くが 4.0 以上の回答であり、満足度の項目平均値は 4.4 で、高い満足度であった。

## ②出席・受講態度・シラバスの活用について

これらの 3 項目は受講者が自分の出席状況・受講態度、シラバスの活用(登録前・履修中)について評価した結果である。これらの項目についての評価結果は、全授業の項目平均値はそれぞれ順に、4.4、4.4、3.7(いずれも 5 点法)(学部 4.4、4.4、3.7、大学院 4.9、5.0、4.9、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科) 4.2、4.6、4.4)であった。参考までに、2022 年度の全授業でのこれらの項目平均値はそれぞれ順に、4.4、4.4、3.6(いずれも 5 点法)(学部 4.4、4.4、3.6、大学院 4.7、4.8、4.8、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科) 4.1、4.5、4.3)で、おおむね同様の傾向がみられた。また、シラバスの活用は、2023 年度においても、出席や受講態度と比べれば低い回答傾向が見られた。

学部については、外国語学部では、学科(専攻)ごとに見ると、出席、受講態度は 4 台(それぞれ、4.3~4.6、4.4~4.5 の範囲)で、シラバス活用はほぼ 3 台(それぞれ 3.3~4.0)であった。現代国際学部の各学科についても、外国語学部と同様で、出席、受講態度は 4 台(それぞれ、4.3~4.5、4.3~4.5 の範囲)で、シラバス活用は 3 台(それぞれ、3.4~3.7 の範囲)であった。世界共生学部においても同様で、出席、受講態度は 4 台(4.3、4.2)で、シラバス活用は 3 台(3.8)であった。また、世界教養学部も同様で、出席、受講態度は 4 台(それぞれ 4.4 と 4.5、4.4 と 4.3)で、シラバス活用は 3 台(3.7、3.4)であった。一方、科目系列等で見ても同様で、出席、受講態度はほぼ総て 4 台で、シラバス活用もほぼ総て 3 台であった。

大学院については、それぞれ、4.9、5.0、4.9 の平均値で、シラバス活用についてもほぼ 5.0 に近い評価結果であった。国際日本語教育インスティテュート(留学生別科)についても、同様にそれぞれ、4.2、4.6、4.4 の平均値で、出席、受講態度、シラバス活用とも 4 台の平均値であった。

## ③授業進度、説明のわかり易さ、授業時間(開始・終了)、熱意、私語への適切な処置、授業参加への配慮、授業レベルの適切性、授業への興味について

これらの 8 項目の評価結果については、項目平均値は全授業で 4.2~4.6 の範囲(学部 4.2~4.6、大学院 4.8~5.0、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科) 4.2~4.7)であった。これらの中で、平均値が最も高いのは、ほぼ共通して、教員の熱意(4.6~5.0)と開始・終了時間(4.6~5.0)で、最も低いのは、ほぼ共通して、授業レベルの適切性(4.1~4.9)であった。参考までに、2022 年度のこれらの項目平均値は、全授業で 4.1~4.6 の範囲(学部 4.1~4.6、大学院 4.2~5.0、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科) 4.2~4.7)であった。

学部についても、同様に、外国語学部の学科(専攻)ごとに見ると、総て 4 台(各項目平均値の範囲は省略)であった。また、現代国際学部の学科については、3 学科ともほぼ総ての項目で 4 台であった。世界共生学部、世界教養学部も総ての学科で同様であった。科目系列等で見ても、4.0 以上の平均値の科目群がほとんどで、ほぼ高い評価結果であった。

大学院については、それぞれ、4.8~5.0 の平均値で、8 項目すべてについて高い評価結果となっている。国際日本語教育インスティテュート(留学生別科)についても、4.2~4.7 の

平均値で、同様に、8項目すべてについて高い評価結果となっている。

## 2. 学生の授業改善アンケート調査結果に対する教員アンケート結果

受講生による授業評価結果について多くの方から記述式の回答をいただいた。ここでは、典型的な回答と判断できる記述内容についてごく一部を紹介する。

### (1) 受講生からのアンケート結果の受け止め方

- ・良い点と改善すべき点の両方を踏まえて、今後の授業に反映していきたい。
- ・妥当なものを受け止めた。ただし回答率が低いのが残念であった。
- ・I am pleased to see the results of this questionnaire as they provide valuable insight into the students' perceptions of the class.

### (2) 授業で解決すべき課題

- ・講義科目でも教員や学生間でインタラクティブな授業にしたいが、受講生が多くなると難しくなる。
- ・オンライン授業では出席の管理を厳密に行うのが難しい。
- ・留学生と本学の学生とのコミュニケーションの促進。
- ・To be aware of AI.
- ・As the students are at a variety of levels, it is sometimes difficult during class discussion.

### (3) 授業での工夫

- ・事前課題をベースにした反転授業を実施している。そのため、授業においては対話がメインとなり、学生間の意見交換が非常に活発になった。
- ・学生のリアクションペーパーにしっかりとフィードバックをして授業内容の定着と学生間の相互理解に努めた。
- ・オンライン授業でリアルタイムのチャットを用いたクイズを出題し、正答の解説とともに受講生の発想の興味深い点を紹介し、他者の多様な考え方に耳を傾けることの重要性に気づかせた。
- ・Throughout the course, students were encouraged to engage in frequent and open communication to address any issues or concerns promptly and effectively.

### (4) FDへの意見

- ・大変興味深く、有意義な情報が得られて大変役に立っている。
- ・課題の適切な量、講義科目でのアクティブラーニングの実施方法と運営などについて知りたい。

## 3. まとめ

学生による授業評価アンケート結果から、本学の2023年度の授業評価は、学部での回答率は減少したが、大学全体、学部・大学院・国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）、科目系列ごとにおいても、従前と同様に概ね良好な結果が得られた。受講生によるアンケート結果に対する先生方の真摯な回答結果に示されているように今後も適切な評価を含めた授業改善の積極的な取り組みを全学的に進めていきたいものである。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	英米語学科	担当者	川原功司
------	-------	-----	------

### 1. 調査結果の概要

英米語学科に関連する調査結果は以下の7つに分類されている。分類の内訳と各回答数及び回答率は以下のとおりである。

- 1) 英米語学科における以下2)～6)の授業評価結果の総計(回答数1,358名、回答率35%)
- 2) 英語基幹プログラム(PuT除く)(回答数416名、回収率49%)
- 3) 専門ゼミナール(回答数138名、回答率33%)
- 専攻言語プログラム/専攻語学(PuTを除く)(回答数583名、回答率28%)
- 4) 専門科目群〔学科基盤〕  
(回答数157名、回答率47%)
- 5) 専門科目群(学科基盤以外)(回答数248名、回答率32%)
- 6) PuT(回答数96名、回答率25%)

上記分類から、特に英米語学科科目である2)と3)、および学科科目である専門科目を含む4)5)を対象として項目ごとの分析をする。

### 2. 項目ごとの分析結果

#### ◎ 専門ゼミナール

授業満足度の項目 A-①は 4.7 と全体平均 4.3 が高いということを考慮しても高い評価になっている。また、授業内容に関わる項目は全て4点台後半と高い数字を出しているのは評価すべき点である。全体の数値としては理想的とも言えるが、回収率が33%であるということ踏まえれば、授業に主体的に取り組む学生がアンケートに答えた結果でしかなく、あまり積極的ではない学生がどのような意見を持っているのかは不明確なままなのは昨年度と同様である。

#### ◎ 専攻言語プログラム

全体的にほとんどの項目において、大学全体の平均値と同等の結果となっている。シラバスの活用についての項目以外はすべて4.1点以上の平均値を得ている。

教員の熱意を問う項目では4.5点と高評価を得ている。この評価から、教員の授業に対する熱心さと語学学習に必要な積極的授業参加の配慮について学生の満足度が見られる。4年生を除き必修科目である点、および学科の全体数を考慮すると、毎年この平均値を維持しているのは、英米語学科における語学プログラムの成果および、教員の努力が大きく影響していると考えたいが、アンケートの回収率が28%であるということ考えると、やはり積極的ではない学生の本音が知りたいのが昨年と同様である。

### ◎ 専門科目群〔基盤〕 / 〔応用〕

学科基盤の A-①で 4.3、応用でも 4.3 であり、全体的には、ほとんどの項目において 4.1 点以上の評価を得ていることから、受講生が概ね好意的な評価をしていることがわかる。「B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。」の回答が、3.5 点なのも昨年と同様である。こちらも回収率が 45%ということを見ると、積極的ではない学生の本音は分からないままである。

### 3. 今後の授業改善に向けて

概して授業評価アンケートの結果が高い本学だが、アンケートの結果は本年度も良好であった。全ての結果において、昨年度とほぼ変わらない。アンケートの回収率が過半数に満たないものが多いのも昨年度と同様である。FD の本義からは外れるが、授業時間ないしは試験時間の一部を使用することも場合によっては考えないといけないかもしれないが、全授業でこれだけの項目をアンケートとして問う必要がそもそもあるのかも考えなければならない。

教員コメントによれば、学生からは概ね高評価のコメントが寄せられているようである。ただ、最近の学生は否定的なコメントを誰に対しても言わなくなってきたという傾向があるようなので、言いにくいことが教員に伝わってきていないこともあるかもしれない。

教員コメントによれば、学生による課題の負担感が大きい、履修者数が多くて負担、他の授業の様子について知りたいといった意見が散見される。また、英語母語話者が担当する講義で AI を使用した解答があるという意見が散見される。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	英米語学科 英語教育専攻	担当者	矢後 智子
------	--------------	-----	-------

### 1. 調査結果の概要

英米語学科英語教育専攻に関する調査結果は以下の科目群についてである。それぞれの回答数および回答率は以下の通りである。

- 1) 学部共通英語基幹プログラム (PUT を除く) (回答数 1 年生 70 名、回答率 70%)
- 2) 専攻言語プログラム (回答者数 154 名 (1 年生 103 名、2 年生 51 名)、回答率 47%)
- 3) 専門科目群 (回答数 70 名 (1 年生 45 名、2 年生 20 名、その他 5 名)、回答率 52%)

上記 3 プログラムについての回答から概ね授業に対しての満足度および評価は高いことが判る。全学的な評価と同じような傾向を示しており、どのプログラムもすべての質問において全学の平均以上の評価をしている。授業外の学習について見てみると、予習・復習については概ね肯定的な回答が多いが、教科書・参考書の使用については未回答の学生が多く見られる。このことから学生の学習に対する自主性や自律性は決して高いとは言えないように感じる。またシラバスの利用は全学平均と同様に低い評価であり、シラバス等を利用し自ら計画的に学習を進める学生の育成が望まれる。真剣に授業に参加する態度や、与えられた課題等にも比較的真面目に取り組む姿勢は見られるが、自らの学びを深めていく態度に関しては身につけているとは言い難いため、自律的な学習者の育成は大きな課題であるように思う。しかしながら今回の調査の回答率も 50～70%と決して高くはなく、更に回答率をあげて調査を行う必要もあると考える。

### 2. 項目ごとの分析結果

#### ○ 専攻言語プログラム

授業への満足度(A-1)については 154 名の回答者数中 128 名(80%)の学生が満足している一方で、満足していないと回答した学生が若干数いる点が気になる。その理由については授業内容についての結果(C-①～⑥、D-①②)に原因の一部があると推測されることから、教員の授業への取り組み等について常に見直しをしていく必要性を感じる。また授業の進み具合やレベルについても授業の満足度には大きな影響を及ぼしているのではないかと考える。授業の進み具合に関しては適切でないと感じている学生が一部弱おり、その回答は早いと感じる学生から遅いと感じる学生まで様々であった。授業のレベルを適切でないと感じる学生も若干数おり、授業の進捗やレベルについて自分にあっていないと考える学生数が一定数いる。特に 1 年次においては入学時の英語力の差がこのような回答につながることも考えられ、これらの学生にどのようなサポートが必要かを今後の課題として考えていきたい。これらの授業改善により授業に興味がない学生の数も減ることを期待する。

### 3. 今後の授業改善に向けて

授業に積極的に参加する学生は多い一方で自主的に学習に取り組む姿勢には欠ける印象を受ける。いずれの評価も確実な要因の断定は難しいが低い評価が示された項目については専攻内で情報を共有し今後の改善に向けた建設的な議論に役立てたいと考えている。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	フランス語学科	担当者	武井由紀
------	---------	-----	------

### 1. 調査結果の概要

フランス語学科の全体的な集計結果については、四学部全体の全授業にかかわる集計結果を示す「全体平均」と比べた場合、「分かりやすさ」、「授業の進度の適切さ」、「興味が持てたかどうか」はいずれもフランス語学科の平均値と同値である。このことから、総じて平均的な評価であると捉えることができるのではないかと考える。2022年度の集計結果でもほぼ同様の結果を示していたことを考慮すると、今回2023年度の結果としては、前年度と比べ、良くも悪くも評価に大きな変化が見られなかったと指摘できそうである。

一方で、「授業を履修して目標とされている外国語の能力を伸ばすことができた」については「全体平均」と比べた場合、フランス語学科の全体的な集計結果の方が、大学全体の平均値よりも0.1ポイント下まわっていること、また、「授業のレベル」については、フランス語学科の全体的な集計結果の方が、大学全体の平均値よりも0.1ポイント下まわっており、授業レベルを「少し高い」、「高すぎる」とする評価が24件中21件に上ることが指摘できる。ただし、「満足度」と、「授業により履修した言語の文化へ興味を持つことができた」では、フランス語学科の全体的な集計結果の方が、大学全体の平均値より0.1ずつ上回っていることが確認できる。このことから、昨年度の傾向と同じく、一年次から基本的には初習言語としてフランス語学習に大変興味を持って取り組んでいるものの、外国語能力の習得度合いにかかわる学生自身の評価については、やや消極的な評価をしているのではないかと推測される。

また、系列ごとに「満足度」に注目してみると、専門ゼミナールについては、学科平均と全学の「全体平均」は同じ数値を示しているが、「専攻言語プログラム」、「学科基盤」、「PUT」については、学科平均が全学の「全体平均」を0.1ポイント上回り、「専門科目群」では学科平均の方が全学の「全体平均」を0.2ポイント上回る結果を示している。「このことから、「満足度」に限定した学科の傾向としては、昨年度と同様に「専門ゼミナール」、PUTを含む「専攻言語プログラム」、「学科基盤」、「専門科目群」は総じて平均以上の好評価を得ていることが見て取れる。また、22年度結果では何故か「全体平均」を0.9ポイント下回る結果を示していた一年次生を象とする「学科基盤」科目では、評価が改善されたことが指摘できる。

### 2. 項目ごとの分析結果

「専攻言語プログラム」では、「満足度」、「授業の進度の適切さ」、「学生が積極的に授業参加できるような配慮」、「授業に大変興味を持てた」、「教員の熱意」、「授業により履修した言語の文化への興味を持つことができた」の項目においては、いずれも「全体平均」を上回っている。基本的には1年次から初習言語として取り組むフランス語の授業を段階的に履修できるよう学科でプログラムを組んでおり、学科内のチームティーチングや情報共有等の効果が反映されているのではないかと考えられる。22年度の結果と比較すると、全体としては緩やかに高評価の方へ振れたように思われる一方で、「授業のレベル」

については、フランス語学科の数値が大学全体の平均値よりも 0.1 ポイント下まわっており、「少し高い」、「高すぎる」という評価が 12 件中 11 件に上った。

「専攻言語プログラム」の一部でもある「PUT」の結果に着目すると、昨年度まで総じて学生の評価が高かったものの、22 年度結果に比べ、今回 23 年度では「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」では 0.1 ポイント、「授業に大変興味を持てた」では 0.2 ポイント、「全体平均」を下回っていることから、テキストは変更していないため、やや評価を下げることになった要因を探りたいところである。

「専門ゼミナール」では、22 年度の結果では、全体的には学科平均が全体平均を上回る好評価が多かったものの、23 年度の結果では、「満足度」、「授業の進度の適切さ」では「全体平均」と同じ評価を得るに留まっており、「興味を持てたかどうか」では「全体平均」より 0.2 ポイント下回る結果が示されているため、学科内で今回の結果について情報共有を図る必要がありそうだ。

この他、「複言語プログラム」では、すべての質問項目において、いずれも「全体平均」を下回る評価を示す結果となった。

### 3. 今後の授業改善に向けて

2023 年度 2 期の結果を総合的に評価すると、22 年度までの傾向と同じく、学科の評価としては総じて平均的か平均を上回る評価ではあると考えられる。一方で、1. と 2. で述べたように、系列によって全学の「全体平均」よりも低い評価が示された科目群が確認された。全学の「全体平均」よりも低い評価が示された要因の断定は難しいが、該当する科目群については学科内で情報を共有し、今後の改善に向けた建設的な議論に役立てたいと考えている。



## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	中国語学科／センター	担当者	岩佐 一枝
------	------------	-----	-------

### 1. 調査結果の概要

前期に引き続き、全体を通して、全体平均を上回る評価結果が得られており、本学科において効果的な講義が実施されていることが確認できた。ただし、やはりアンケートへの回答数が低いものが目立つことから、今後も学生に対し積極的な回答を促し、授業への満足度や改善点をより詳細に把握したいところである。

調査結果の中で特筆すべきは、専攻言語プログラムに対する学生の満足度の高さであり、これには学科教員の熱意と授業内容や方法についての様々な工夫が背景にあると推察される。(教員アンケートの結果参照。) また、当設問への回答数は比較的高く、アンケート結果は実情をより正確に反映していると考えられることから、今後も現在行っている教育方針に則り、工夫を重ね、学生の中国語能力向上に努めたい。加えて、専門ゼミナールを通し、学生が言語文化に対しポジティブな学習効果を得ていること、専攻言語の運用能力が向上していることもうかがえる。

上記以外に、本学科生が複言語の習得にも励んでおり、更にその関連地域への興味も高まっていることが当該アンケート結果から明らかとなっている。

以上のことから、本学科が目指す教育目標は概ね達成できたと判断する。今後も、学生が各講義内容に更に興味を持ち、積極的に授業に参加し、自主的に学習に臨めるよう、学科教員全体で研究・教育に励んでいきたい。

### 2. 項目ごとの分析結果

(取り上げる項目は任意です)

B-③ 評価の値は前回よりも大幅に向上し、学生がシラバスを大いに活用していることが分かった。教員が講義内で声かけを行うなどした結果だと思われる。今後もシラバスを有効活用してもらえよう、引き続き授業内で周知徹底したい。

B-⑤ 教科書、参考書などを十分に活用した：全体平均より0.5ポイント高い4.7との結果を得た。各教員が、補足資料の作成・配布、関連動画の紹介など、それぞれ授業内容・構成を工夫した結果だと考えられる。今後も教科書や参考書を学生が十分に活用し、中国語を習得していけるよう、指導に務める。

### 3. 今後の授業改善に向けて

まず、今後更にアンケートの回答率を上げ、より正確に学生の授業に対するニーズ、満足度を把握することが重要な課題である。しかしながら、アンケート結果から、教員各自がそれぞれ授業内容に工夫を凝らし、その結果学生が積極的に授業に参加し、語学力アップを実感していることがうかがえた。引き続き、学科教員一丸となって、専門教育に益々力を入れていきたい。

一方、練習問題や作文問題における MT 利用が目立ち、教員側がその対応に苦慮している様子もアンケートから明らかになった。この問題については、学科を超えた議論、対策が望まれるが、学科内で有効な MT 対策、あるいは活用などを模索していきたい。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	グローバルビジネス学科	担当者	大浜賢一郎・原慎之介
------	-------------	-----	------------

### 1. 調査結果の概要

全体の回収率が大きな課題である。回答の9割が22・23生のものとなっており、本分析においては3年生以上の傾向について正しく評価することが困難である。

全体平均と比較した学科平均の傾向として、授業満足度(A)、受講態度(B)、授業方法(C)いずれの項目においてもほぼ平均と同じ値であった。授業レベルや授業への関心(D)については、全体平均を若干下回る項目が散見された。一方授業科目の区分別にみると、PUTについては比較的満足度が高いことが伺えたが、その他の区分については軒並み全体平均と同水準か、下回っているものが多かった。

### 2. 項目ごとの分析結果

#### ○回収率について

のべ受講者数1,813人に対して316件の回答があり、回収率は17.4%であった。前年度の26.8%と比較してさらに減少しており、授業時間内にアンケート回答の時間を必ず設けるなど、回収率を高めるための取り組みが必須である。

#### ○全体集計

##### A (授業満足度)

全体平均4.3ポイントに対して学科平均は4.2ポイントであり、ほぼ変わらない値であった。

##### B (受講態度)

Bの各項目において学科平均が全体平均を上回った項目がなく、最大で0.3ポイント下回っている。

B-③ シラバスの活用について、全体平均3.7ポイントに対して学科平均3.4ポイントと低い値であった。

B-④ 予習復習について、全体平均3.9ポイントに対して学科平均3.7ポイントと低い値であった。

##### C (授業方法)

Cの各項目については、全体平均とほぼ変わらない値であった。

##### D (授業への関心)

Dの多くの項目について、全体平均を0.2から0.3ポイント下回っていた。

D-①-2 授業レベルについては、少し高いと回答した学生が15人、少し低いと回答した学生が11人であった。

#### ○区分別

##### ・アカデミックスキルズプログラム

B-② (受講態度)、B-③ (シラバスの活用)、B-④ (予習復習) について、全体平均よりも0.5ポイ

ント以上低い値となっていた。回収率は29% (28/95人)であったが、注意すべき傾向であると考えられる。

- ・英語基幹プログラム

B-① (出席)、B-② (受講態度) について、全体平均を0.4ポイント下回っている。シラバスの活用についても低い値であった。また、C-③ (私語への対応) が全体平均よりも0.5ポイント低く、配慮が必要である。ただし回収率は13%にとどまった。

- ・PUT

A から D のほとんどの項目で全体平均を0.3ポイント程度上回っており、学生の満足度が非常に高いことがうかがえる。回収率も41%と、他の区分と比較しても明確に高かった。ただし、B-① (出席) については平均よりも0.6ポイント低かった点に留意すべきである。

- ・その他英語科目 (Basic English ほか)

ほとんどの項目で全体平均と同程度の水準であった。

- ・専門基礎科目

B-③ (シラバスの活用)、C-③ (私語への対応) について、全体平均よりも低い値であった。その他の項目については概ね平均と同程度であった。

### ○教員コメント

- ・全体として、好意的な反応が多かったとの感想を述べているものが多かった。批判的な回答に対しても、今後の授業改善に活かしていきたいといった肯定的な感想が述べられていた。
- ・課題として多く挙げられていたのは、学生の理解度の差、オンラインによる難しさなどが中心であった。また一部、教室の機材に関する指摘もあった。
- ・教育効果を高める工夫として、特にアクティブラーニングに取り組んでおられる教員が多くみられた。
- ・FDの取り組みについて、肯定的な意見が多く見受けられた。

## 3. 今後の授業改善に向けて

アンケートの回収率について、前年度以上に大幅に悪化してしまった点は反省が必要である。特に3年生以上の回答がほぼ得られず、次回の課題としたい。

回答内容について、PUTについては満足度が高かったことが示されたが、他の多くの科目においても満足度を高められるような取り組みが求められる。講義科目の特徴による部分はあると考えられるが、予習復習についてももう少し促すことも検討すべきであろう。また、私語への対応についても必ずしも十分でない場合があることがうかがえる。本来学生が気をつけるべき事柄ではあるものの、緊張感のある雰囲気づくりを含めて教員側で工夫できる部分がないか考える必要がある。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	現代英語学科／センター	担当者	福島みのり、吉見かおる
------	-------------	-----	-------------

### 1. 調査結果の概要

全体的に、授業の満足度が 4.3（5点満点）とかなり高い。具体的に見てみると、教員の場合、教え方、授業の進み方、学生への配慮など殆どが学生から高い評価を得ている。学生の場合も、授業に対する真剣な態度や高い目標意識を持っており、一段と成長したと判断できる。特に、「PUT（パワーアップチュートリアル）」(4)の授業は満足度が 4.8 と殆どの学生が満足しており、現代英語学科の専門科目群(11)の授業においても満足度が 4.6 と学生の満足度が如何に高いかが窺え、名古屋外大の特長が発揮できていると判断できる。

但し、問題点としてアンケート調査の回答率が非常に低い。受講者数 1,407 人中回答者数が 416 件と、回答率がわずか 30%に留まっている。現代国際学部共通のエアスタディーズ(9)の授業の場合、受講者数 294 人中回答数は 40 件と回答率は 14%に止まっている。50%以上の回答率を確保するために、授業内でアンケート調査に協力してもらうなど特段の措置が必要であると言える。

### 2. 項目ごとの分析結果

アンケートの項目の中では、B-③(この授業の登録前または履修中にシラバスを活用した＝平均点 3.5～3.8)、B-4(この授業に関して予習、復習など積極的に行なった＝平均点 3.2～3.7)の質問に対する回答の数値が著しく低くなっている。学生がシラバスの概念やシラバスの活用方法についてあまり把握していないため、このような結果が出たのではないかと推測される。シラバスを商品に例えるならその説明書であり、山登りに例えるなら地図である。授業の全体像は言うまでもなく、事前の準備や授業の進み方、最後の課題まで把握する上で欠かせないものであることを学生に十分に注意を促す必要がある。

予習や復習に関する質問(B-4)は、アンケートの質問として適切かどうか疑問の余地が残る。自己アピールに弱い日本の学生に「予習、復習を積極的に行なったか」という質問に対して、「普通」以下に回答する可能性が高い。予習、復習にどのくらい時間を費やしたのかを聞いた方がより客観的かつ回答しやすいのではないかとと思われる。

次に、現代国際学部共通 [Basic English、Step-Up English/ Applied English] (8)の回答の中で、D-4(この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた)の質問に対する回答の平均点が著しく低く、平均点が 3.4、回答が 22 件、未回答が 22 件となっている。この質問の趣旨が理解できてなかった学生が多いと推測される。

### 3. 今後の授業改善に向けて

学生のアンケート回答に対して科目の担当教員からのフィードバックをまとめてみると次のようになる。まず、担当教員が授業における主な問題は、「履修者数が多い」「学生の私語」、「予習復習の不足」、「できる学生とできない学生の差」、「オンライン授業での双方向のコミュニケーション問題」、「学生の日本語能力の低下」などであった。次に、講義科目の場合、学生側は「わかりやすさ」を求めるものの、教員側からは、大学から学ぶべきものは抽象的で概念的なことも多いこともあり、学生との食い違いも見られた。但し、学生の日本語ペーパーや文章の理解能力の低下、「問いを立てる」、「考察」、「検証」などの学問的なプロセスに対する理解の足りなさをどのように改善できるかが今後の大きな課題であることが窺える。総じて、担当教員の回答からは「よりわかりやすい資料のつくり方」「学生の積極的な授業参加を促す方法」や、「授業外で時間をとり、個別面談を実施し、学生の要求に応じたい」など授業の改善に積極的な姿勢をとっていることが見られ、今後こうした実践も並行して行っていくことが望ましいと考える。

2024年6月末提出

## 授業改善のためのアンケート調査（2023年度）－学科分析結果

組織名称	国際教養学科	担当者	根無一信
------	--------	-----	------

### 1 どこに着目するか

本報告は調査結果を以下の3項目の関係を軸にして分析し、学科の特徴や問題点と思しきものを取り出すことを目的とする。

- 「A-①この授業は、全体として満足であった」……「満足度」
- 「B-①この授業には、休まず出席していた」……「出席率」
- 「B-②この授業には、真剣な態度で受講した」……「真剣さ」

とくに、「満足度」が「出席率」と「真剣さ」と相関しているかどうかに着目すると、相関している場合とそうでない場合があることがわかる。今年度の分析対象は、以下の通りである。

	初年次	2年次以降
語学科目	PUT	LAGSE
専門科目関係	専門基礎科目	国際教養科目群

初年次と2年次以降と比較することで、問題点や評価点を浮かび上がらせたい。

### 2 語学科目：PUT（初年次）、LAGSE（2年次以降）

PUTでは全15項目中14項目で全体平均以上であり、全体的に高評価を得ていることがわかる。上記3項目については次の通りである。

- 満足度：4.7（平均4.3）
- 出席率：4.3（平均4.4）
- 真剣さ：4.7（平均4.4）

出席率は平均以下であるが、0.1ポイントの差であるから特に問題視する必要はないだろう。むしろ、「真剣さ」と「満足度」の度合いが高いことから、この科目においては「真剣

に授業に出席し、授業にも満足している」と考えられる。

次に LAGSE であるが、数値上は全 15 項目中 10 項目で平均を下回り、上回ったものはゼロであった。しかし、平均との差については問題視するほどの大きさはないため（どの項目についてもほぼ 0.1~0.2 の差である）、2 年次以上の学科の語学科目は平均的な評価を得られているとみてよかろう。「満足度」、「出席率」、「真剣さ」についても以下の通りであり、平均的な数値を示している。

- 満足度：4.1（平均 4.3）
- 出席率：4.3（平均 4.4）
- 真剣さ：4.4（平均 4.4）

**3** 専門科目関係：専門基礎科目（初年次）、国際教養科目群（2 年次以降）

専門基礎科目（旧カリ：レジリエンス・コア科目）の科目群においては、全 15 項目中 13 項目で平均を下回っており、平均との差が大きな項目も多い。特に大きな差があるものを挙げておく。

- B-4 「授業に関して予習、復習などを積極的に行った」： 3.0（平均 3.9）
- B-5 「指定された教科書、参考書などを十分に活用した」： 3.0（平均 4.2）
- C-2 「教員は分かり易く説明していた」： 3.5（平均 4.4）
- D-①-1 「授業のレベルは自分にとって適切であった」： 3.3（平均 4.2）
- D-② 「この授業に大変興味を持てた」： 3.5（平均 4.3）

ここから容易に推察され得るが、満足度も低い結果となっている。「出席率」と「真剣さ」については平均と大差がないので、「満足度」の低さが目立つ。

- 満足度：3.7（平均 4.3）
- 出席率：4.4（平均 4.4）
- 真剣さ：4.2（平均 4.4）

授業に興味を持ってない故にこの科目系列への評価が低いと推察することができるが、根本的な問題は「授業レベル」にあるのではないかと推察される。大学での学びと高校での学びにおける断絶を伺わせる結果である。この論点については後でまた触れることにし、国際教養科目群を見てみよう。

全 15 項目中 9 項目で全体平均以上であり、他の項目でも問題視すべきほどの低い評価項目はなかった。全体的に高評価を得ていることがわかる。プラス評価マイナス評価ともにどの項目も平均と大きな差はないが、とくにプラス評価の点で平均に対する一番大きな差

をつけたものとしては、D-②「この授業に大変興味を持てた」の「4.6 (平均 4.3)」である。「満足度」、「出席率」、「真剣さ」については以下の通り。

- 満足度：4.5 (平均 4.3)
- 出席率：4.3 (平均 4.4)
- 真剣さ：4.4 (平均 4.4)

これは、初年次に立ちはだかる壁に真面目に向き合った結果、苦しみながらも実力をつけることができた学生が多いという証拠になり得るだろう。高校とは異なるレベルの授業にうろたえながらも、くらいついていけばその後の成長につながるということを学生自身も実感しているのではないだろうか。

#### 4 まとめ

語学科目については初年次と比べて二年次の評価がやや低いが、逆に専門科目では初年次よりも二年次以降がかなり高い評価を得ている。PUTは全学科目であるから単純な比較はできないが、対話型のPUTの評価が高く、学術的なLAGSEの評価が低いことは、学生の関心の傾向を明確に示している。

専門科目について初年次で苦戦するのは、大学で行われる学術的な学びに不慣れであるからであるが、二年次以降は専門科目を高く評価していることから、学術的問題への関心が高まることが伺われる。

国際教養学科の学生は、語学については学術的な領域のものよりも会話を学びたがっていると思われるが、学術的関心も決して低いわけではなく、むしろ高い数値を示しているので、LAGSE科目の意義を学生に強調することの重要性を指摘することができるだろう。これを本分析の結論としたい。



## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	世界共生学科	担当者	西村
------	--------	-----	----

### 1. 調査結果の概要

昨年と同様、世界共生学科全体の質問回答集計表から、どの質問項目についても、大半の学生が「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」を選択している。全学の平均と比較した場合にも、平均値について大きな差異はないことがわかる。

B-③「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」という項目については、「普通」「あまりそうは思わない」「そうは思わない」と回答した学生の割合が計50%に上ることから、シラバスの活用の仕方が学生および教員の間で共有されていないということがうかがえるが、必須などあらかじめ履修登録されている科目については、「登録前」の利用は期待できないことから「あまりそうは思わない」「そうは思わない」が多い可能性も考えられる。

全体にアンケートの回収率が低かったが、比較的多く（半数超）の回答が得られた英語基幹プログラムについては、教員の授業方法への高い評価が伺われた。

講義形式が多い科目群（リージョナル・スタディーズ、コース科目／グローバルメディア科目）では、概ね順調に行われていることが伺われたが、アンケート回収率が20%以下であり、有効な分析を行うことは難しい。

### 2. 項目ごとの分析結果

#### ① 英語基幹プログラム

A-①「この授業は、全体として満足であった」、B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-⑥「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった」といった項目では、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が多いことから、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。C-②「教員はわかりやすく説明していた」、C-③「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」、C-④「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」については「とてもそう思う」を選択した学生が全体の7割超と多いことから、教員の指導に対する学生の評価が非常に高いといえる。B-⑤「この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」については未答数が4割に及ぶが、理由は分からない。

アンケート回収率は54%である。

#### ② PUT

①「英語基幹プログラム」と同様、どの項目も「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の回答がほとんどを占めている、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。また、教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価が全体の平均値と比べても非常に高いといえる。

アンケート回収率は25%と低いため、参考程度にとどめるべきである。

### ③ 専攻言語プログラム

B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」という項目では、全学平均と比較して0.3ポイント上回る高い数値が出ている。B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-⑥「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった」といった項目でも、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が多く、全学平均を0.1ポイント上回る。学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価も、全学平均と比較して0.2~0.3ポイント高い数値が出ている。他方、この授業でも、B-⑤は半数が未答である。

D-③「この授業を履修して、目標とされている外国語の能力を伸ばすことができた」については、「とてもそう思う」「ややそう思う」の選択数が多く、全学平均を0.2ポイント上回る。

D-④「この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた」については、204件(57%)が未回答である。専攻言語(本学科では英語)と複言語で履修した言語の文化との関係性が想定できずに未答という可能性が考えられる。そもそも質問の意図は何であろうか? 検討が必要かもしれない。

アンケート回収率は54%である。

### ④ アカデミックスキルズプログラム

B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」では、「とてもそう思う」「ややそう思う」が大半を占め、学生がこの授業を重要だと考え、授業の予習・復習に取り組んだと解釈することができる。また、C-④「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」についても「とてもそう思う」「ややそう思う」が合わせて93%と高い評価が得られている。

一方、A-①「全体として満足であった」については、「とてもそう思う」「ややそう思う」が75%、「普通」が22%、「あまりそう思わない」が1名(2%)と、決して悪い結果とは言えないが、全体平均と比べるとマイナス0.2ポイント差となっている。D-①「この授業に大変興味をもてた」については「とてもそう思う」が32%、「ややそう思う」が50%、「普通」が14%、「あまりそう思わない」が2名であり、こちらも悲観するほどの数値でないにせよ、やはり全体平均より0.2ポイント低い結果となっている。A-①、D-①の結果と関連する可能性が伺える項目としては以下が挙げられる。

C-②「教員はわかりやすく説明していた」では「普通」「あまりそう思わない」「そう思わない」が合わせて20%であり、全学平均を0.3ポイント下回っている。

C-③「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」について、「あまりそうは思わない」「そうは思わない」が20%であり、全学平均を0.9ポイント下回っている。

C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」では「あまりそうは思わない」「そうは思わない」と答えた学生は2名であるが、全体平均を0.3ポイント下回っている。

アンケート回収率は45%であり、昨年度の回収率77%を大きく下回った。そのため、前年度に比して、この結果から妥当な結論を導くことは難しい(たとえば、D-①-1「授業のレベルは自分にとって適切で合った」の派生項目D-①-2では「少し高い」「少し低い」がそれぞれ1名であるが、この結果をどう捉

えるかは、45%の回収率では判断が難しい)。ただ、授業の開始・終了時刻と説明の仕方について改善が求められることは確かである。

#### ⑤リージョナルスタディーズ

アンケートの回収率が17%ときわめて低いが、学生の満足度と取り組みにおける積極性を問うA、Bの項目、教員の努力を問うCの項目、ならびにD-②「この授業に関心を持てた」のほとんどの項目で「とてもそう思う」「ややそう思う」が回答の75%以上、「普通」が20%前後を占めている。

前述の通り、アンケートの回収率が低いため、この結果がリージョナルスタディーズ全体への評価と必ずしも合致しない可能性はある。

#### ⑥コース科目／グローバルメディア科目

アンケートの回収率が20%と低いため、この項目についても参考程度にとどめる必要があるが、学生の満足度と取り組みにおける積極性を問うA、Bの項目、教員の取り組みを問うCの項目、ならびにD-②「この授業に関心を持てた」のほとんどの項目で「とてもそう思う」「ややそう思う」が回答の80%以上を占めており、おおむね順調に授業が行われていることが見てとれる。

#### ⑦コース科目（コース共通）

アンケートの回収率が19%と低いため、この項目についても参考程度にとどめる必要があるが、いずれの項目においても回答は「とてもそう思う」「ややそう思う」に多く分布している。

### 3. 今後の授業改善に向けて

まずはアンケートの回収率を上げ、その上で改善すべきところを明らかにしていきたい。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	世界教養学科	担当者	平山陽洋
------	--------	-----	------

### 1. 調査結果の概要

- 全体の回収率が34%であり、高いとはいえない。
- 学科科目では、「専門ゼミナール」が全体平均よりもやや高く、「専攻言語プログラム」が全体平均並みに高く、「コース科目(2~4年次科目)」は全体平均よりもやや低い。ただし、それぞれの科目の回収率を考えると、「専攻言語プログラム」(とくに1,2年次)を除き、正確な評価とするには難がある。
- 学部科目の「ブリッジ科目(1年次科目)」は、全体平均をかなりの程度下回っている。ただし、回収率が低いため、正確な評価とするには難がある。
- 全学プログラム科目では、「PuT」が全体平均よりも高く、「英語基幹プログラム(PuTを除く)」が全体平均並みに高く、「アカデミックスキルズプログラム」は全体平均よりも低い。ただし、それぞれの科目の回収率を考えると、「英語期間プログラム(PuTを除く)」を除き、正確な評価とするには難がある。

### 2. 項目ごとの分析結果

#### [1] 専門ゼミナール

- 回収率22%(受講者数93人に対し回答者20人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)、教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)、授業で得たものの評価(D質問群)のいずれも、全般的に高い(4.5以上が多い)。B質問群、および、C質問群は、全体平均より、若干、高い。D質問群は、「授業のレベル」「授業への興味」とも、全体平均より0.5ポイント高い。
- B質問群のうち「シラバスを活用したか」、C質問群のうち「私語に適切な処置がとられたか」の評価が、若干、低い。ただし、全体平均並み。

#### [2] コース科目(2~4年次科目)

- 回収率15%(受講生数232人に対し回答者34人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)は、全般的に高い(4.5前後が多い)。全体平均より、若干、高い。
- B質問群のうち、「シラバスを活用したか」「予習、復習を積極的に行ったか」の評価が、若干、低い。ただし、全体平均並み。
- 教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)、授業で得たものの評価(D質問群)は、全般的に高め(4.0~4.5が多い)。ただし、C質問群は、全体平均より、若干、低い。D質問群は、全体平均並み。
- C質問群のうちの「学生の積極的参加への配慮」の評価が、若干、低い。全体平均より0.4ポイント低い。

#### [3] ブリッジ科目(1年次科目) ※ 世界教養学部科目

- 回収率26%(受講生数105人に対し回答者27人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)、教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)、授業で得たものの評価(D質問群)のいずれも、3.0~3.7に収まる評価が多く、全体平均をかなりの程度下回る。

#### [4] 専攻言語プログラム

- 回収率36%(受講生数925人に対し回答者333人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。1,2年次生の回答者は多く、それぞれ、回答者の延べ人数が、147人、120人である。1,2年次の回収率は一定程度高いと予想され、1,2年次学生全体の感想を、一定程度反映していると想定される。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)、授業で得たものの評価(D質問群)は、全般的に高め(4.0~4.5が多い)。全体平均並み。
- B質問群のうち、「シラバスを活用したか」の評価が、若干、低い。ただし、全体平均並み。
- 教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)は、全般的に高い(4.5前後が多い)。全体平均並み。

#### [5] アカデミックスキルズプログラム

- 回収率36%(受講生数90人に対し回答者32人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)は、全般的に高め(4.0~4.5が多い)。全体平均並み。

- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)のうち、「シラバスを活用したか」「指定された教科書、参考書を活用したか」の評価が、若干、低い。「シラバスを……」は全体平均並み。「指定された……」は全体平均より0.6ポイント低い。
- 教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)は、全般的に高め(4.0~4.5が多い)。全体平均より、若干、低い。
- 授業で得たものの評価(D質問群)は、全般的に、高いとはいえない(2項目とも3.9)。
- C質問群のうち、「わかりやすく解説していた」、D質問群のうちの「授業のレベル」のいずれも、全体平均より0.3ポイント低い。D質問群のうちの「授業への興味」は、全体平均より0.4ポイント低い。

#### [6] 英語基幹プログラム(PuTを除く)

- 回収率51%(受講生数255人に対し回答者129人)であり、学生全体の感想を一定程度反映していると考えられる。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)、授業で得たものの評価(D質問群)は、全般的に高め(4.0~4.5が多い)。教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)は、全般的に高い(4.5以上が多い)。どちらも、全体平均並み。

#### [7] PuT

- 回収率26%(受講生数81人に対し回答者21人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)は、授業で得たものの評価(D質問群)は、全般的に高い(4.5以上が多い)。全体平均より高い。
- 教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)は、全般的に高め(4.0~4.5が多い)。

### 3. 今後の授業改善に向けて

- なにより、アンケートの回収率を上げることが先決。
- 回収率が低い場合、なんとも判断できない。そのことに目をつぶった場合、つぎの諸点を想定できると思われる。
  - 世界教養学部科目である「ブリッジ科目」(1年次科目)において、教育内容と学生の求める水準のあいだでミスマッチが起こっている。2年次以降の学習の基盤を提供できていない。
  - 「ブリッジ科目」(1年次科目)⇒「コース科目」(2~4年次科目)⇒「専門ゼミナール」と、学年があがるにつれて提供される科目の評価があがり、2年次からの教育で、上記ミスマッチの解消がはかられていると考えることができる。ただし、「コース科目」で「学生の積極的参加への配慮」が高くないことを考えると、1年次、2年次において、教養教育と、教養教育と専門教育のつなぎになる教育を、学生が積極的にかかわるようなかたちで提供できていない、ともいえる。
  - 「ブリッジ科目」(1年次科目)の評価の低さと、「アカデミックスキルズ」に対する興味のなさをあわせて考えると、とくに1年次教養教育への不満が高い可能性がある。
  - 物事の見方、考え方といった「1年次教養教育」を、実質的に、授業回数の多い専攻言語プログラム等の英語授業が担っている可能性がある。とくに、教員とのコミュニケーションがベースとなるPuTの評価の高さは、学生が興味を惹かれ、積極的にかかわれる「1年次教養教育」がないことへの不満の裏返し、とも解することができるか。
- ⇒ 1年次教養教育の整備が求められる。あわせて、1年次の教養教育から専門教育につなぐ仕組みの整備も求められる。
- 英語教育に関しては、満足度の調査と、TOEICなどをもちいた教育成果の測定とをあわせて考える必要がある。高校の英語教育などでも、英語でおしゃべりさせておけば満足度があがるが、それが、必ずしも、英語力の向上につながらないという事例は耳にする。
- 教養教育、専門教育の場合も、満足度の調査と教育成果の測定をあわせて考える必要があると考えるが、教養教育、専門教育の場合は、なにをもって「教育成果」とするかが難しい、という問題もある。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	国際日本学科／センター	担当者	齋藤 綯
------	-------------	-----	------

### 1. 調査結果の概要

本調査は2023年度2期の学科授業に関する授業改善アンケートの結果を分析したものである。「全体集計」表において、国際日本学科は受講者数1,386名に対し、回答数336名、回答率は24%であった。回答率が3割を満たさないため、学科生の受講環境及び教員の指導に関する動向の全体を分析することが困難であり、本アンケート結果の分析は一部の学生の意見・視点に留まることを指摘したい。一方で、現在分析が可能な範囲内で2023年度2期の授業アンケートの結果を捉え、今後の学科の教育環境の改善に努めることを目標とし、下記の通り調査結果の概要を述べる。

本調査では、結果の分析において、とりわけ二つの視点を用いた。一つは、国際日本学科生の「授業への満足度、評価等」であり、二つ目に「学習態度に関する評価」である。国際日本学科生の授業への満足度、評価において、「PUT」「英語期間プログラム（PUTを除く）」「複言語プログラム」については、「授業の満足度」「教員の説明のわかりやすさ」「授業レベルの適切さ」などは、学部全体の平均と大差がなく、満足度において「とてもそう思う」「ややそう思う」が全体の約70～80%を占めた。しかし、アカデミックスキルズは満足と回答した学生は全体の40%であり、普通が20%、不満足は25%の結果であった。問題点は、「教員が分かり易く教えていた」の回答の半数が「あまりそうは思わない」「そうは思わない」でなかった点にあると考える。授業への興味に対する質問（D-②）の回答も半数が「あまりそうは思わない」「そうは思わない」であり、受講への期待・意欲が低かったことが指摘できる。

学科のブリッジ科目（「国際文化としての日本」「日本の政治・経済」）については満足度・評価、学習態度の双方において「とてもそう思う」「ややそう思う」が100%を満たし、受講環境が良好であることが分かった。専攻言語プログラム（「言語教育概論」）、コース科目/日本語教育プログラム科目（「日本語教授法」「日本語教育文法2」）の満足度・評価は「とてもそう思う」「ややそう思う」が全体の約70～80%を占めた。また、専門ゼミナールは回答率が全体の33%ではあったが、「とてもそう思う」が100%を満たしており、学科の専門性を深め学びの総体を担うゼミナール、また専攻言語プログラム、コース科目の受講について学科生の満足度が良好な状態にある点は評価できる点であり、学科生とのコミュニケーションが良好な状態にあると考える。

### 2. 項目ごとの分析結果

#### (1) 国際日本学科生の授業の満足度、評価の平均

※[5 そう思う, 4 ややそう思う, 3 普通, 2 あまりそう思わない, 1 そうは思わない]

※( ) は学部全体平均。

※取りあげた項目…これまで分析で継続的に扱われてきたことによる。

以下の表は、国際日本学科生の授業の満足度と評価の状態について提示したものである。全体の平

均を（ ）内に示し、全体と学科との差異について比較をおこない、着目した。

- ① 全体の集計…学科平均値は全体と大きな差は見受けられない。
- ② PUT…全体よりもやや数値が低い項目として、学生自身のレベルと授業のレベルとが合わないと感じる学生が一定数いることが分かった。
- ③ アカデミックスキルズ…全体の平均値よりも著しく低い状態にある。改善の必要がある。
- ④ PUTを除く英語基幹科目…全体の平均値よりも下回る。改善の必要がある。
- ⑤ 複言語プログラム…全体の平均値よりも高く、比較的良好な状態と言える。
- ⑥ ブリッジ科目（基盤科目）…全体の平均よりも著しく高く、良好な状態と言える。
- ⑦ コース科目…全体の平均よりも高く、比較的良好な状態と言える。
- ⑧ 専攻言語プログラム…全体の平均よりも若干低く、教員の指導方法と授業環境、熱意など、改めて取り組む必要があることを担当者に相談する必要があると考える。
- ⑨ 専門ゼミナール…全体の平均よりも著しく高く、良好な状態と言える。

	A①授業は全体として満足であった	C②教員の説明は分かり易かった	C④授業には熱意が感じられた	C⑥学生が積極的に授業参加できよう配慮されていた	D①授業のレベルは自分にとって適切であった	D②この授業に大変興味を持っていた
全体の集計	4.2 (4.3)	4.4 (4.4)	4.6 (4.6)	4.3 (4.4)	4.1 (4.2)	4.2 (4.3)
PUT	4.3 (4.3)	4.3 (4.4)	4.4 (4.6)	4.6 (4.4)	4.0 (4.2)	4.4 (4.3)
アカデミックスキルズ	3.1 (4.3)	3.1 (4.4)	3.9 (4.6)	3.7 (4.4)	3.9 (4.2)	3.0 (4.3)
PUTを除く英語基幹科目（TTI）	3.9 (4.3)	4.1 (4.4)	4.3 (4.6)	3.8 (4.4)	3.4 (4.4)	3.9 (4.4)
複言語プログラム	4.5 (4.3)	4.7 (4.4)	4.8 (4.6)	4.5 (4.4)	4.3 (4.2)	4.3 (4.3)
ブリッジ科目	4.8 (4.3)	4.8 (4.4)	4.8 (4.6)	4.8 (4.4)	4.5 (4.2)	4.8 (4.3)
コース科目	4.2 (4.3)	4.4 (4.4)	4.7 (4.6)	4.4 (4.4)	4.2 (4.2)	4.4 (4.3)
専攻言語プログラム	4.2 (4.3)	4.4 (4.4)	4.6 (4.6)	4.2 (4.4)	4.1 (4.2)	4.2 (4.3)
専門ゼミナール	5.0 (4.3)	5.0 (4.4)	5.0 (4.6)	5.0 (4.4)	4.9 (4.2)	5.0 (4.3)

(2) 国際日本学科生の学習態度に関する評価の平均

※[5 そう思う, 4 ややそう思う, 3 普通, 2 あまりそう思わない, 1 そうは思わない]

※( )は学部全体平均

※取りあげた項目…これまで分析で継続的に扱われてきたことによる。

以下の表は、国際日本学科生の授業の満足度と評価の状態について提示したものである。全体の平均を( )内に示し、全体と学科との差異について比較をおこない、着目した。

- ① 全体の集計…学科平均値は全体と大きな差は見受けられないが、予習・復習など促していきたい。
- ② PUT…全体と大きな差はない。英語学習の予習・復習を積極的に取り組んでいることが分かる。
- ③ アカデミックスキルズ…授業に対する評価は全体の平均値よりも著しく低い状態にあったことに  
対し、学習者自身に対する受講への姿勢は項目によっては全体を上回った。予習・復習が不足し  
ていることが指摘できる。
- ④ PUTを除く英語基幹科目…全体と大きな差はない。
- ⑤ 複言語プログラム…授業に対する評価は全体の平均値よりも高く、比較的良好な状態と言えたが、  
受講生自身への評価は全体を下回っている。しかし、予習・復習など学習に対しては積極性がみ  
られる。
- ⑥ ブリッジ科目（基盤科目）…全体の平均よりも著しく高く、良好な状態と言える。
- ⑦ コース科目…全体の平均よりも高く、教員・学生の双方が比較的良好な状態にある。
- ⑧ 専攻言語プログラム…全体の平均と大きな差はない。上の表では、教員の指導方法と授業環境、  
熱意など、改めて取り組む必要があることを担当者に相談する必要があると指摘したが、受講者  
自身に対する評価はそう低くないことが分かった。
- ⑨ 専門ゼミナール…研究レポート、卒業論文の執筆に励む学生が多く、その点、各回のゼミナールの  
授業を積極的に受講しているものとする。ただ、シラバスの活用については数値が低く、発表/  
報告の機会や執筆活動の計画など、シラバスと連動してゼミの活動を体系化していくことが望  
ましいと考える。

	B①休まず出席した	B②真剣な態度で受講した	B③シラバスを活用した	B④予習・復習などを積極的に行った
全体の集計	4.2 (4.3)	4.5 (4.4)	3.4 (3.7)	3.8 (3.9)
PUT	4.7 (4.4)	4.4 (4.4)	2.9 (3.7)	4.5 (3.9)
アカデミックスキルズ	4.7 (4.4)	4.0 (4.4)	2.6 (3.7)	3.0 (4.2)
PUTを除く英語基幹科目 (TTI)	4.6 (4.4)	4.3 (4.4)	3.1 (3.7)	4.2 (3.9)
複言語プログラム	4.4 (4.4)	4.2 (4.4)	3.3 (3.7)	3.3 (3.9)
ブリッジ科目	5.0 (4.4)	4.5 (4.4)	4.5 (3.7)	4.0 (3.9)
コース科目	4.4	4.2	3.7	3.7



	(4.4)	(4.4)	(3.7)	(3.9)
専攻言語プログラム	4.5 (4.4)	4.3 (4.4)	3.5 (3.7)	3.7 (3.9)
専門ゼミナール	4.9 (4.4)	5.0 (4.4)	3.1 (3.7)	4.3 (3.9)

### 3. 今後の授業改善に向けて

今回の分析を通じて、国際日本学科生の学習に対する姿勢は、全学の学生の平均値と大きく差がひらいている項目はアカデミックスキルズを除いては特に見受けられなかった。アカデミックスキルズについては、ここ数年授業に関する評価が低下している状態にあり、学生の水準の把握や授業方法の改善など、担当教員との相談が必要な状態である。学習者自身は特に受講をおろそかにしているわけではないということが分析のなかで見えた部分があった為、授業がどのような状態にあるのか、実態を把握する工夫が必要と感じている。

一方で、ブリッジ科目（基盤科目）や専門ゼミナールは非常に意欲的に取り組んでいる状態であり、英語関係科目とあわせて、学科の専門性の習得において良好な環境にあることが分かった。真剣な態度で受講する者の割合が高く、受講する授業の担当教員も熱意があると評価していること、また積極的に学生を授業に参加させ興味の湧く授業展開をしている割合が高いことから、教員とのコミュニケーションも円滑におこなわれているものと思われる。本学科の多くの授業では、ペアワーク、グループワーク等の活動も多く、学科で培った実践日本語力を活用するために多くの授業でプレゼンテーションの機会も多く与えていることから、学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていると感じた学生の割合が高かったものと考えられる。また、コース科目/日本語教育プログラム科目は、二年次以上の対象科目であり、今回の結果においては、教員も学生も双方が良好な形で授業が展開されているものと思われる。しかし、1年生対象の日本語や日本文化などの講義科目については、すべての学生のレベルに合った授業展開をすることのむずかしさがあり、このアンケート結果は学科全体の授業評価ではない点を認識すべきである。本アンケート結果だけでは全体の評価が把握できないため、今後学科で独自のアンケートを準備するなど、引き続き授業改善に向けて取り組み、教員と学生の双方にとってより良い環境を築いていけるよう努めたい。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	CLED	担当者	古村由美子
------	------	-----	-------

対象：外国語学部、世界教養学部、現代国際学部、世界共生学部 CE、LC、TTI

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2022年度は4.3であったが、当該2023年度は4.4で、前年度よりも評価が少々上がった。また、PUT以外の全学部対象 CELP の評価は、全体平均は4.3よりも0.1高い評価であった。

回答率については、昨年度の53%の回答率に対して今年度は46%となり、回答率が下がったため、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

### 2. 項目ごとの分析結果

ほとんどの項目で、全体平均と同じが微差がある程度であり、概ね評価は高いと言える。

### 3. 今後の授業改善に向けて

C-①-2は、C-①-1「授業の進み具合は適切であった」の間に対して、「早すぎる」(7名)、「少し早い」(22名)、「少し遅い」(6名)という結果を示している。本集計は4学部全体の回答数(1,114名)から出てきた数字であるため、それほど大きな数字ではないかもしれないが、今後進捗に関しては、学生の学習の状況を見ながら教員が調整することが必要と思われる。

D-①-1「授業のレベルは、自分にとって適切であった」の間に対して、「高すぎる」(11名)、「少し高い」(32名)、「少し低い」(74名)、「低すぎる」(2名)という結果を示している。この結果は昨年度の結果と同じような傾向を示している。CELPの科目によっては、上級者クラスを創設して、上位レベルの学生対象とそれ以外の学生対象のクラスを別に創設することによって、学生のレベルにあった指導法を適用できると思われる。

対象：外国語学部、世界教養学部、現代国際学部、世界共生学部 PUT

### 1. 調査結果の概要

全体平均より低かった項目なく、全ての項目で全体平均を上回った。この結果から、PUTが学生から高く評価されていることがわかる。

しかしながら、回答率は33%であるため、もっと回答率を上げる方策を考える必要がある。

### 2. 項目ごとの分析結果

全ての項目が全体平均より高かったが、その内全体平均より0.4以上高かった項目は、B-4「予習、復習を積極的に行った」、C-①-1「授業の進み具合は適切であった」、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」であった。

これらの結果は、教員の教育方法が高く評価され、その効果として学生の授業への意欲が高まり、自学習の時間が増したと考えられる。

### 3. 今後の授業改善に向けて

PUTは4名の学生に対して教員1名という、語学学習として理想的な授業形態である。NUFSの英語教育プログラムの特徴を示す代表的科目として、今後も現在の状況が存続することを期待する。

## 対象：英米語・英語コミュニケーション専攻 CELP（除 PUT）

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」については、4.5であり全体平均4.3よりも上回った。全体平均を下回った項目はB-③のみであり、学生が本授業を高く評価したことがわかる。

### 2. 項目ごとの分析結果

B-③「シラバスを活用した」以外の全ての項目において全体平均と同等か少々上回った。

### 3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。

## 対象：英語教育専攻 CELP（除 PUT）

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」については、4.5であり全体平均4.3よりも上回った。全体平均を下回った項目は2項目あったが、学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。

### 2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回った項目は、C-⑤「私語への適切な処置」3.6、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」4.2であった。

これ以外の項目は全体平均と同じかやや上回った。

### 3. 今後の授業改善に向けて

学生から高い評価を得た項目内容から鑑みると、学生の学習意欲が高く、教員が授業を適切なレベルで実施していることが窺える。しかしながら、C-⑤「私語への適切な処置」3.6の結果を鑑みると、私語に対して教師の適切な対応が求められている。

## 対象：フランス語学科 CELP（除 PUT）

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2022年度は4.2であったが、当該2023年度は4.6

だったので、前年度よりも評価が上がった。また全体平均より 0.3 上回った。

## 2. 項目ごとの分析結果

全体平均よりも低かった項目はなかった。全体平均よりも 0.4 高かった項目は 2 つあり B-②「真剣な態度で受講した」、B-5「指定された教科書、参考書等を十分に活用した」であった。

## 3. 今後の授業改善に向けて

上記の結果により、学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。

### 対象：中国語学科 CELP（除 PUT）

## 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2022 年度は 4.3 であったが、当該 2023 年度は 4.2 だったので、前年度よりもわずかに評価が上がった。

9 項目 A-①、B-①、B-②、C-②、C-③、C-④、C-⑤、C-⑥、D-①-1、D-②が全体平均を下回った。それ以外は全体平均と同じか上回った。

## 2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回った項目は 9 個あったが、全体平均よりもわずかに下回る程度であったため、問題はないと考える。一方全体平均よりも 0.4 上回った項目は 2 つあり、B-4「予習、復習などを積極的に行った」、B-5「指定された教科書、参考書等を十分に活用した」であった。

## 3. 今後の授業改善に向けて

B-4 と B-5 は自主学习に関する内容であるため、学生の学習意欲がより高まっていることを示している。

### 対象：英米語学科 PUT

## 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」については、4.6 であり全体平均 4.3 よりも上回った。全体平均を下回った項目はなく、学生が本授業を高く評価したことがわかる。気になる点は、回答率の低さ(25%)である。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

## 2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった項目は 1 つであり、B-③「シラバスを活用した」で、3.5 であった。

この項目以外の項目では、全体平均と同じか上回った。全体平均より 0.4 以上高かった項目は 5 つで、項目内容は、「真摯な態度で受講した」4.8、「予習・復習などを積極的に行った」4.6、「4 スキルの内いずれか 1 つ以上に積極的に取り組むようになった」4.7、「授業進度が適切」4.7、「学生の積極的授業参加への配慮」4.8 であった。教員の指導上の配慮により、学生が積極的に授業参加できたことがわかる。

### 3. 今後の授業改善に向けて

シラバスの活用以外は、どの項目も高得点であったため、今後も今期同様の取り組みが望まれる。

## 対象：フランス語学科・中国語学科 PUT

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、4.6であり全体平均よりも0.3高かった。全体平均を下回った項目はなく、全体平均と同じか上回った。学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。気になる点は、回答率の低さ(30%)である。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

### 2. 項目ごとの分析結果

全体平均より0.4以上高かった項目は6つで、B-2「真摯な態度で受講した」4.9、B-4「予習・復習などを積極的に行った」4.7、B-6「4スキルの内いずれか1つ以上に積極的に取り組むようになった」4.8、C-①-1「授業進度が適切」4.8、D-②「授業に大変興味を持てた」4.7、D-3「4スキルのうちいずれかを伸ばすことができた」4.7であった。教員の指導上の配慮により、学生の興味が増し、積極的に授業参加できたことがわかる。

### 3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。

## 対象：世界教養学科 CELP (除 PUT)

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は4.2であり、全体平均4.3を少し下回った。全体平均より低い項目は3つで、他の項目では全体平均と同じか少し上回った。回答率は51%であり、他の学科と比較すると高めであった。

### 2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった項目は、B-5、C-⑤、C-⑥の3つであったが、いずれも全体平均より0.1低かっただけで、評価数値としては4.1以上であった。上記以外の項目は、全体平均と同じかわずかに上回る程度であり、問題のない数値であった。

### 3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。

## 対象：世界教養学科 PUT

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、4.4であり、全体平均4.3を少し上回った。全体平均より低い項目は1つで、全体平均と同じか上回った。2項目において0.4以上上回った。

気になる点は、回答率の低さ(26%)である。昨年度の回答率38%と比較すると12%上がってはいるが、依然として低い率である。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

## 2. 項目ごとの分析結果

全体平均より0.4以上高かった項目は2つで、B-4「予習・復習などを積極的に行った」4.4、D-3「4スキルのうちいずれかを伸ばすことができた」4.7であった。全体平均より低かった項目は、C-④「教員は熱意を持って取り組んでいた」4.3で全体平均より0.3低かったが、4.3という評価に問題はないと考える。

## 3. 今後の授業改善に向けて

今後も今期同様の取り組みが望まれる。回答率が26%と低く、全体の実像を把握することは難しいため、回答率を上げる方策が必要である。

### 対象：国際日本学科 CELP（除 PUT）

#### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は3.9であり、全体平均4.3を大きく下回った。全体平均より低い項目は9つで、他の項目では全体平均と同じか少し上回った。気になる点は、回答率の低さ(22%)である。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

#### 2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった9項目のうち、全体平均より0.3以上低かった項目は6つあった。

B-③「シラバスを活用した」3.1、C-2「教員はわかりやすく説明していた」4.1、C-④「教員は熱意を持って取り組んでいた」4.3、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」3.8、D-①-1「授業レベルが適切」3.4、D-②「授業に大変興味を持てた」3.9であった。

#### 3. 今後の授業改善に向けて

授業レベルに関しては、33名中5名が「少し高い」、4名が「少し低い」と回答しており、このクラスでの英語力レベルに差のあることがわかる。このようなレベル差に関しては、今後どのように取り組んでいくかをさらに検討する必要がある。「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」が3.8であったことから、今後は担当教員が学生の授業参加をより促す工夫をすることが期待される。

### 対象：国際日本学科 PUT

#### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は4.3であり、全体平均4.3と同じであった。全体平均より低い項目は6つで、他の項目では全体平均と同じか上回った。気になる点は、回答率の低さ(14%)である。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

#### 2. 項目ごとの分析結果

全体平均より評価が大きく高かった項目は1つであり、B-4「予習・復習などを積極的に行った」4.6であった。全体平均より低かった6項目のうち、全体平均より0.3以上低かった項目は3つあった。それらの項目はB-③「シラバスを活用した」2.9、C-3「教員は開始時間、終了時間をきちんと守っていた」4.3、C-⑤「私語への適切な処置」3.4であった。

### 3. 今後の授業改善に向けて

C-⑤「私語への適切な処置」3.6の結果を鑑みると、私語に対して教師の適切な対応が求められている。しかしながら、B-4「予習・復習などを積極的に行った」が4.6で高評価であったことから、学習意欲が高いことがわかる。今後も今期同様の取り組みが望まれる。回答率が14%と低く、全体の実像を把握することは難しいため、回答率を上げる方策が必要である。

## 対象：フランス語学科 PLP（英語）

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、4.1であり全体平均よりも0.2低かった。ほとんどの項目が全体平均を下回った。全体平均より上回った項目はなかった。気になる点は、回答率の低さ(16%)である。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

### 2. 項目ごとの分析結果

全体平均より0.3以上低かった項目は8つで、B-②「真摯な態度で受講した」4.1、B-③「シラバスを活用した」3.4、B-6「4スキルの内いずれか1つ以上に積極的に取り組むようになった」3.9、C-④「教員は熱意を持って取り組んでいた」4.1、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」4.0、D-①-1「授業レベルが適切」3.7、D-②「授業に大変興味を持てた」3.9、D-3「4スキルのうちいずれかを伸ばすことができた」3.7であった。

### 3. 今後の授業改善に向けて

全体平均より0.3以上低かった項目であっても、4以上の評価の項目もあるため、ひどく評価が低いというわけではない。しかしながら、学生の授業への興味が他のクラスに比べると低く、授業への取り組みへの積極性がやや低いように見受けられる。今後はそれぞれの科目の内容についても検討する必要があるかもしれないが、下記に述べる他の学科の評価はやや高めであることから、指導方法によっても学生の興味を引き上げることができるのではないかと予想する。

## 対象：中国語学科 PLP（英語）

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、4.6であり全体平均よりも0.3高かった。全体平均を下回った項目はなく、全体平均と同じか上回った。学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。気になる点は、回答率の低さ(18%)である。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

### 2. 項目ごとの分析結果

全体平均より0.5以上高かった項目は2つで、B-4「予習・復習などを積極的に行った」4.4、B-5「教

科書、参考書などを十分に活用した」4.7 であった。これらの評価により学生の学習への態度が積極的であったことがわかる。

### 3. 今後の授業改善に向けて

上記の2項目以外の項目も高い評価であったため、教員の指導方法も適切であったことが窺える。今後も今期同様の取り組みが望まれる。

## 対象：国際日本学科 PLP（英語）

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は4.5であり、全体平均4.3より0.2上回った。全体平均より低い項目は5つで、他の項目では全体平均と同じか上回った。気になる点は、回答率の低さ(34%)である。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

### 2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった5項目のうち、全体平均より0.4低かった項目はB-③「シラバスを活用した」3.3のみであり、それ以外の項目はわずかに下回る程度であった。多くの項目が全体平均よりやや高かったが、B-5「教科書、参考書などを十分に活用した」4.6で全体平均より0.4高く、C-②「教員はわかりやすく説明していた」4.7で、全体平均より0.3高かった。

### 3. 今後の授業改善に向けて

授業レベルや進度についても順に4.3、4.6であり適切であることがわかる。全体的に評価は高かったため、今後も今期同様の取り組みが望まれる。

## 対象：フランス語学科・国際日本学科共通 PLP（英語）

### 1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は4.1であり、全体平均4.3より0.2下回った。全体平均より低い項目は10項目で、他の項目では全体平均と同じか上回った。気になる点は、回答率の低さ(23%)である。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

### 2. 項目ごとの分析結果

全体平均より大幅に高かった項目は、D-4「この授業により、履修した言語の文化への興味を持つことができた」4.8であった。全体平均より低かった10項目のうち、全体平均より0.3低かった項目は7つあり、B-②「真剣な態度で受講した」3.9、C-①-1「授業進度が適切」4.0、C-②「教員はわかりやすく説明していた」4.0、C-3「教員は開始時間、終了時間をきちんと守っていた」4.3、C-④「教員は熱意を持って取り組んでいた」4.0、C-⑤「私語への適切な処置」3.9、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」4.0であった。

### 3. 今後の授業改善に向けて

全体平均よりも低かった項目は多いが、評価自体が特に低いというわけではない。しかしながら、教員の適切な配慮により、もっと多くの学生の学習意欲を高めることができると考えられる。D-4「この授



業により、履修した言語の文化への興味を持つことができた」が 4.8 であったことは、この授業の方向性が適切であったことを示している。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	教養教育推進センター	担当者	甲斐清高
------	------------	-----	------

### 1. 調査結果の概要

教養教育推進センター(CLAD)提供の科目群のうち、ICT プログラム、および、世界教養プログラム応用科目のアンケート結果を対象に分析する。ICT プログラムについては「データサイエンス A」等、世界教養プログラム応用科目については、「世界文学 B」、「絵画から世界を読む」、「現代を生きる哲学」等がアンケート対象科目となっている。

ICT プログラムについては、回答者数 236 名（回収率 24%）、世界教養プログラム応用科目については、回答者数 435 名（回収率 15%）であった。

### 2. 項目ごとの分析結果

#### ICT プログラム

2022 年度の結果と比べると、2 つの質問項目（B-4「この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった」、D-①-1「授業のレベルは、自分にとって適切であった」）は同じ平均値であったが、それ以外の質問項目は全て数値が上がっている。多くの回答者が受講した「データサイエンス A」は統計学の基礎を学ぶ科目であり、本学の学生は苦手な場合が多いものの、受講生が理解しやすいように担当教員が工夫した結果であろう。担当教員からの意見をもとに教科書を変更したことも、良い影響を与えたものと考えられる。

#### 世界教養プログラム応用科目

全体的に、大学全体の平均と同じくらいの結果であるが、「C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。」および「C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるように配慮されていた」が、少し平均を下回っている。

私語への適切な処置に関しては、授業がすべてオンラインで実施されている点を考慮すると、この質問への回答が平均を下回っているのは当然であり、特に問題はない。学生が積極的に参加できるように配慮しているかどうかについても、この科目群においては、クラスサイズが非常に大きく、かつオンラインで実施されている点を考えると、平均を下回るのはやむを得ない部分もあるだろう。オンラインでの授業であるにもかかわらず、「C-④教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」等について、高い数値を示していることを考えると、担当教員の熱心な取り組みが伝わっているのは良い結果だったと思われる。

### 3. 今後の授業改善に向けて

#### ICT プログラム

依然として、全体平均より低い項目が多いので、引き続き授業改善に努めていきたい。特に、積極的に予習・復習するように導くこと、受講生の理解度を考慮して授業を進めてもらえるように、担当教員に伝えていきたい。

#### 世界教養プログラム応用科目

クラスサイズの大きいオンライン授業においては、少人数の対面授業よりも、積極的に授業に参加している実感が小さくなることは当然であり、仕方のない部分であるとも思えるが、実際のところ、個々の教員は、学生が授業に参加できるように、工夫を凝らしている。オンライン授業であるとはいえ、学生の参加意識を配慮しながら、さらに満足度の高い授業を目指していきたい。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	大学院グローバルコミュニケーション研究科	担当者	鈴木茂
------	----------------------	-----	-----

### 1. 調査結果の概要

いずれの質問項目についても、5～4.8の評価である。大学院の性格から、全体として主体的な学修の姿勢がうかがえる。

### 2. 項目ごとの分析結果

(取り上げる項目は任意です)

特に改善を要すると思われる項目は内容であるが、学部生を対象とする質問項目 D-3

(この授業を履修して、目標とされている外国語の能力(話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ)を伸ばすことができた。)は、外国語文献を利用する研究の促進という観点から、大学院生にも設定しても良いかもしれない。

## 2023年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	国際日本語教育インスティテュート	担当者	村上かおり 櫻井省吾
------	------------------	-----	---------------

### 【日本語科目とジャパNSTディーズ科目】

#### 1. 調査結果の概要

##### ● 日本語科目

2023年度2期の国際日本語教育インスティテュート(IJLE)では104名が対面授業で日本語科目を受講した。2023年度2期にIJLEとして開講した日本語コースは週8コマの集中コース5つ、週4コマの半集中コース4つの計56コマであった。

##### ● ジャパNSTディーズ科目

昨年度もほぼすべての項目で全体平均を上回っていることから、学生のGJSC科目に対する満足度がうかがえる。数多くある科目から自分が興味ある科目を選び、留学生と国内学生が英語で異文化交流をしながら学び合うというGJSCならではの特徴が大きく加担しているであろう。

#### 2. 項目ごとの分析結果

##### ● 日本語科目

調査対象となった14項目全てにおいて平均値4.0以上であり、そのうち9項目が4.6以上であった。これは概ね良好な結果と言ってよいであろう。日本での日本語習得への期待を胸に留学してきた学生たちの要望に応えることができた結果だと言えよう。特に「C-4 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」と「B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」は4.9、「C-3 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」は4.8、「C-6 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」と「C-5 授業中の私語には適切な処置がとられていた」はいずれも4.7であった。また「C-2 教員はわかりやすく説明していた」(4.6)によって「B-2 この授業には、真剣な態度で受講した」(4.7)と「D-2 この授業に大変興味を持てた」(4.6)が導かれたことによって、「A-1 この授業は、全体として満足であった」(4.6)と高い評価を得るという結果につながったと考えられる。

受講生からのこのような高い満足度を引き出す授業を継続して展開してくださった56コマ分の担当教員の方々の努力と工夫に深い感謝の意を表したい。

なおB-3「シラバスの活用」に関して、IJLEの日本語科目のクラス分けはプレイスメントテストの結果によって教師が行なっているため、受講生自身がシラバスを読んで受講コースを選択しているわけではないことを追記したい。

##### ● ジャパNSTディーズ科目

全体平均を下回った項目は「この授業には休まず出席していた」(4.3)と「授業の進み具合は適切であった」(4.2)であった。前者に関しては、留学生にとっては限りある日本滞在期間のなかで、時には学外で

の経験を優先して授業を休むことがあるため、致し方ない点である。後者に関しても、留学生に合わせて英語で授業を進めると、日本人学生にはペースが速く感じられるであろうし、日本人学生に合わせて授業を進めると、留学生にとってはペースが遅く感じられるというジレンマがあるのではと思われる。今回一番高い点（4.7）を有した「授業の開始時間・終了時間はきちんと守られていた」「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」は、各教員が所属学部でのティーチングノルマを満たしたうえで、全学共通の GJSC の科目を引き受けてくださっている熱意とコミットメントの表れなのではないかと思われる。

### 3. 今後の授業改善に向けて

#### ● 日本語科目

協定校数の増加と共にこれからも留学生数の増加が期待される。今後も受講生の日本語力伸長と満足度の向上を目指し、授業の質の更なる向上を期した教育の実施に力を注ぎ続けたい。

授業の改善からはやや離れるが、今回のアンケートでは受講生 104 名中、回答数が 60 名（58%）に留まった。これは前年度の回収率（26%）よりは大幅に改善されたが、今後はさらに多くの受講生からのフィードバックを得て授業の改善に生かすことができるように、インスティテュート内での告知を強化したい。

#### ● ジャパンスタディーズ科目

ほぼすべての項目が全体平均より上回っているとはいえ、その差は特別大きなものではない。今後の課題は数値には表れにくい「授業の質」に目を向けていくことである。国際共修授業は、外大ならではの留学生と国内学生が共に英語で授業を受けることができる、いわゆる海外留学に行かなくても国内にしながら英語力や国際センスを磨くことのできる科目である。その特徴を大いに生かすためには、すべての GJSC 科目で講義形式から脱却し、アクティブラーニングの学習形態（特に協調学習や協働学習）が肝要である。そのためには、各科目担当者の横の繋がりを強化し、互いの教授法の共有、勉強会が必要ではないかと思う。

# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英米語・英語コミュニケーション専攻

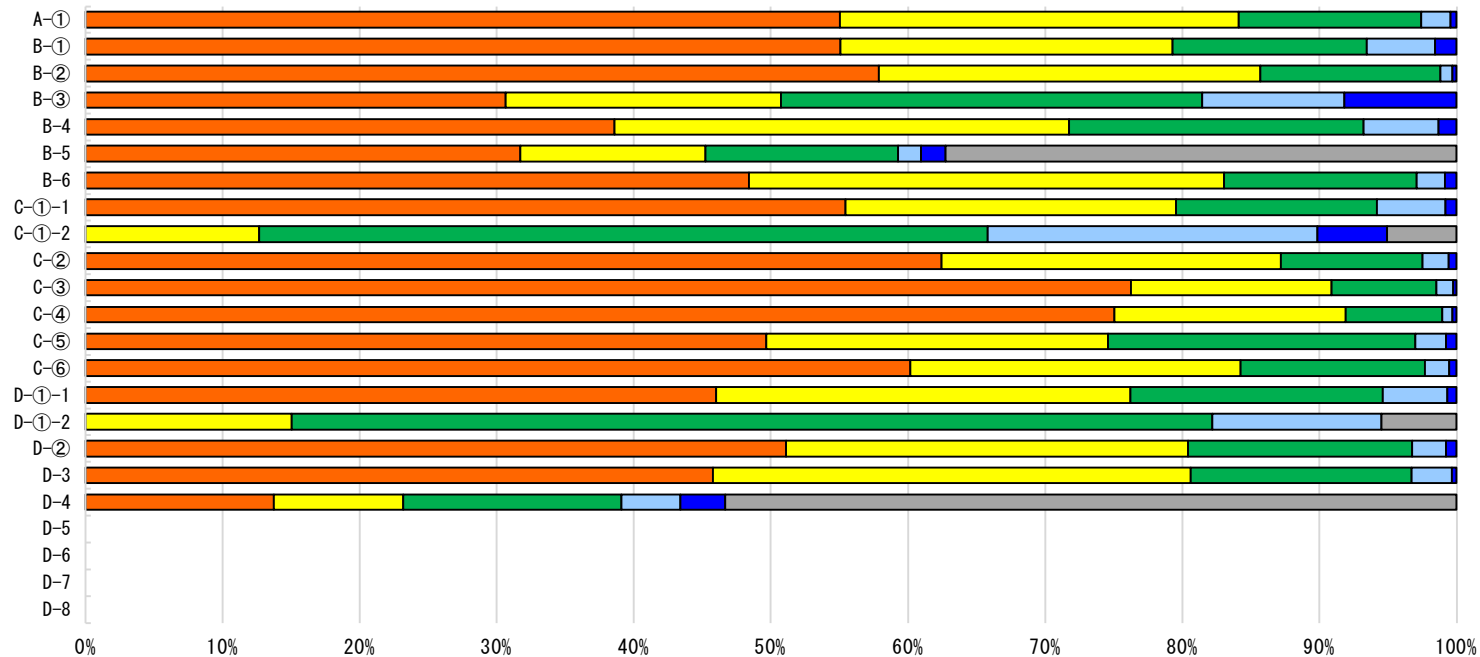
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	870	---	---
22生	318	---	---
21生	66	---	---
20生以前	102	---	---
その他	2	---	---
不明	0	---	---
合計	1,358	3,845	35%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	747	395	181	29	6	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	748	329	192	68	21	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	786	378	178	12	4	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	416	273	417	141	111	0	3.5	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	524	450	292	74	18	0	4.0	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	431	183	191	23	24	506	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	282	202	82	12	5	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	753	327	199	68	11	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		10	42	19	4	4		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	848	336	140	26	8	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,036	198	104	17	3	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,019	229	96	10	4	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	674	339	304	31	10	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	817	327	183	24	7	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	625	410	250	64	9	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		11	49	9	0	4		
D-② この授業に大変興味を持てた。	694	398	222	34	10	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	267	203	94	17	2	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	80	55	93	25	19	311	3.6	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英語教育専攻

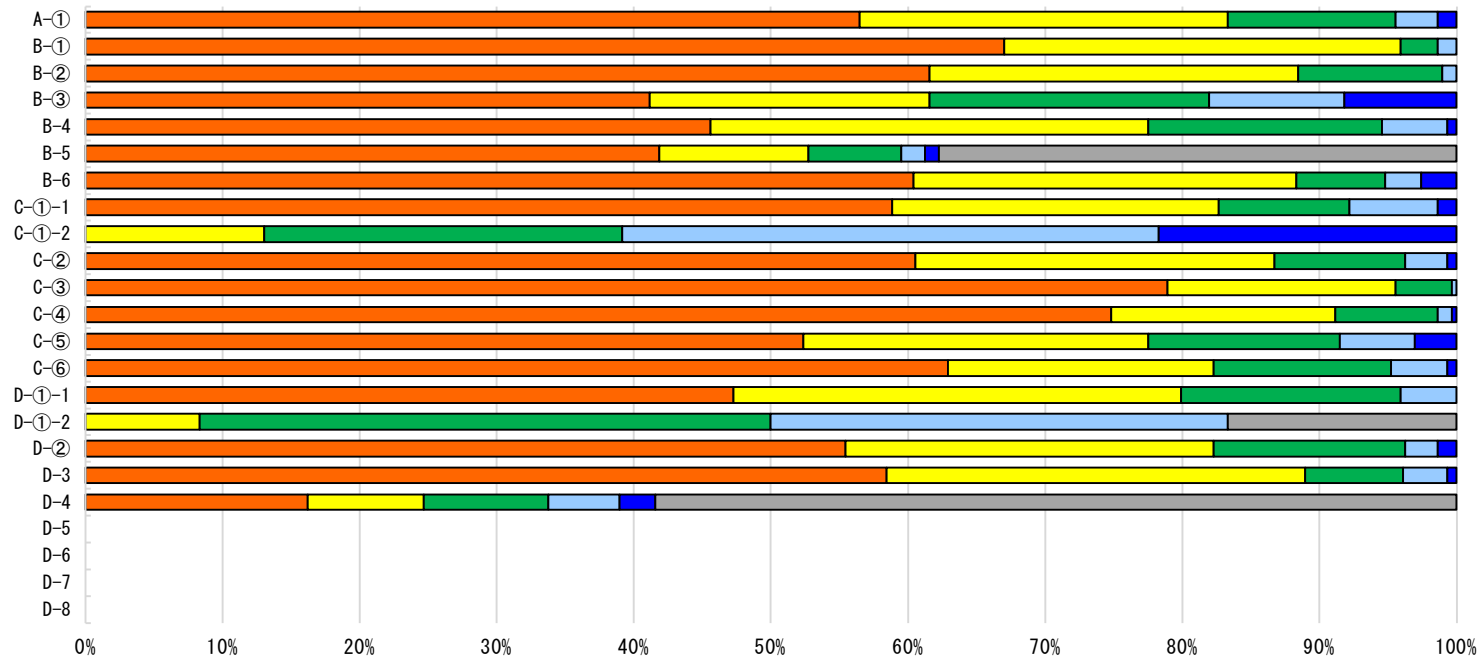
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	218	---	---
22生	51	---	---
21生	20	---	---
20生以前	5	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	294	560	53%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	166	79	36	9	4	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	197	85	8	4	0	0	4.6	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	181	79	31	3	0	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	121	60	60	29	24	0	3.8	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	134	94	50	14	2	0	4.2	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	123	32	20	5	3	111	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	93	43	10	4	4	0	4.4	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	173	70	28	19	4	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 3	少し早い 6	少し遅い 9	遅すぎる 5	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	178	77	28	9	2	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	232	49	12	1	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	220	48	22	3	1	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	154	74	41	16	9	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	185	57	38	12	2	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	139	96	47	12	0	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 1	少し高い 5	少し低い 4	低すぎる 0	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	163	79	41	7	4	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	90	47	11	5	1	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	25	13	14	8	4	90	3.7	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答





集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英米語学科共通

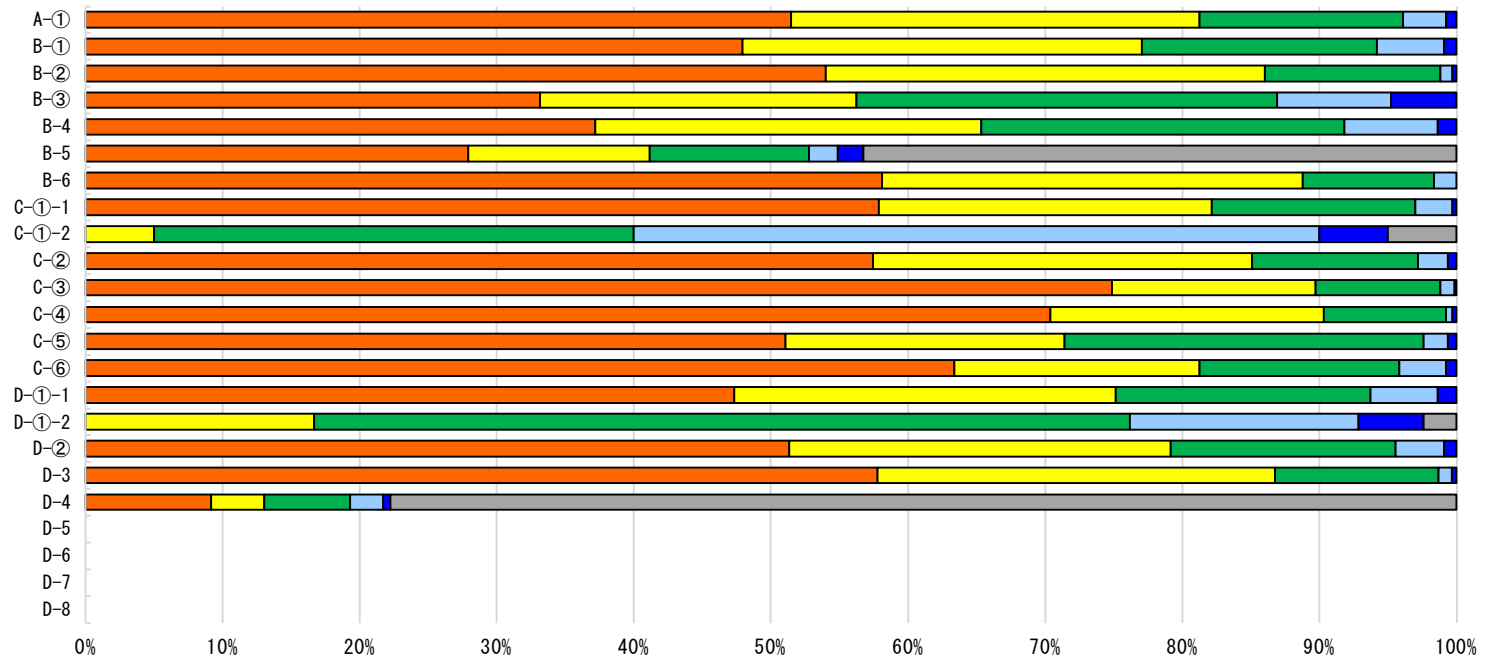
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	209	---	---
22生	232	---	---
21生	138	---	---
20生以前	93	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	672	2,582	26%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	346	200	100	21	5	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	322	196	115	33	6	0	4.2	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	363	215	86	6	2	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	223	155	206	56	32	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	250	189	178	46	9	0	3.9	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	161	76	67	12	11	249	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	176	93	29	5	0	0	4.5	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	389	163	100	18	2	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 7	少し遅い 10	遅すぎる 1	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	386	186	81	15	4	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	503	100	61	7	1	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	473	134	60	3	2	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	343	137	176	12	4	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	426	120	98	23	5	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	318	187	125	33	9	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 7	少し高い 25	少し低い 7	低すぎる 2	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	345	187	110	24	6	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	175	88	36	3	1	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	19	8	13	5	1	161	3.8	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>

■とてもそう思う (5) ■ややそう思う (4) ■普通 (3) ■あまりそう思わない (2) ■そうは思わない (1) ■未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	フランス語学科

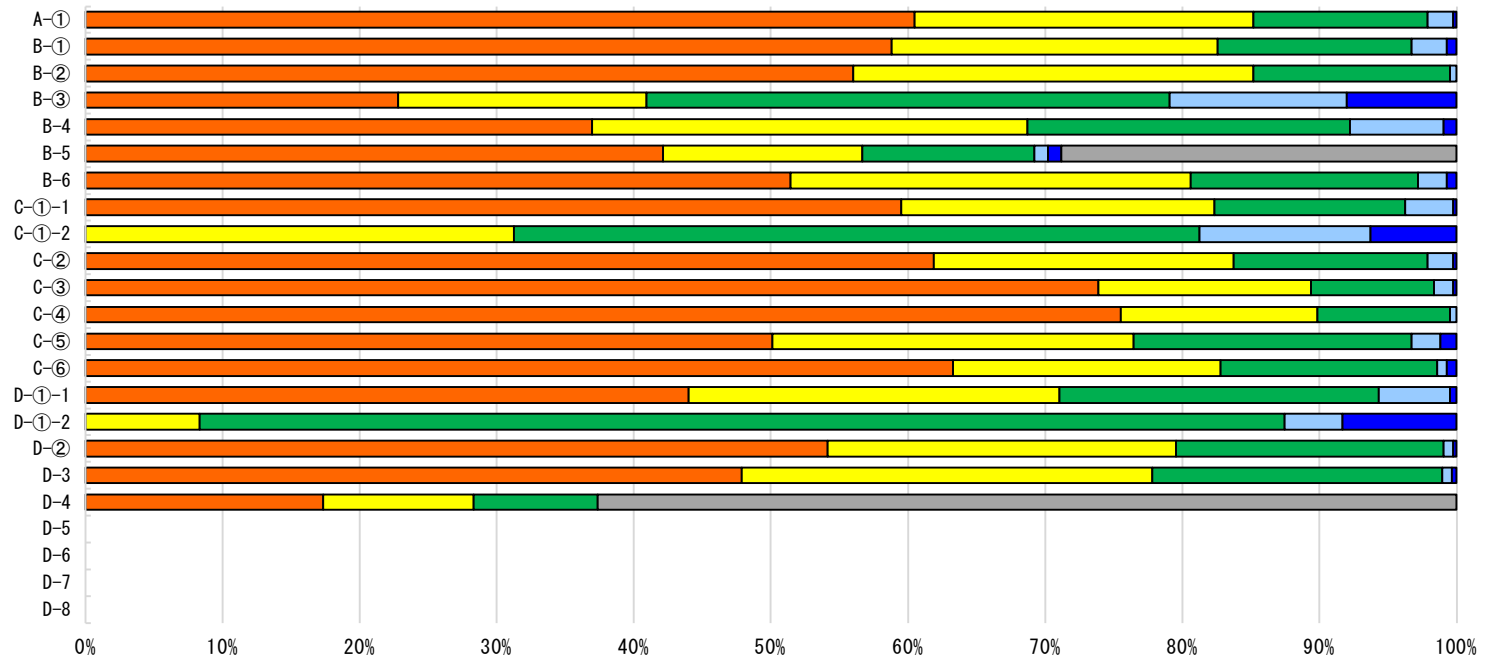
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	170	---	---
22生	107	---	---
21生	97	---	---
20生以前	47	---	---
その他	4	---	---
不明	0	---	---
合計	425	1,145	37%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	257	105	54	8	1	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	250	101	60	11	3	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	238	124	61	2	0	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	97	77	162	55	34	0	3.3	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	157	135	100	29	4	0	4.0	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	171	59	51	4	4	117	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	146	83	47	6	2	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	253	97	59	15	1	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 5	少し早い 8	少し遅い 2	遅すぎる 1	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	263	93	60	8	1	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	314	66	38	6	1	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	321	61	41	2	0	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	213	112	86	9	5	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	269	83	67	3	3	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	187	115	99	22	2	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 2	少し高い 19	少し低い 1	低すぎる 2	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	230	108	83	3	1	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	136	85	60	2	1	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	46	29	24	0	0	166	4.2	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■とてもそう思う (5)
 ■ややそう思う (4)
 ■普通 (3)
 ■あまりそう思わない (2)
 ■そうは思わない (1)
 ■未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	中国語学科

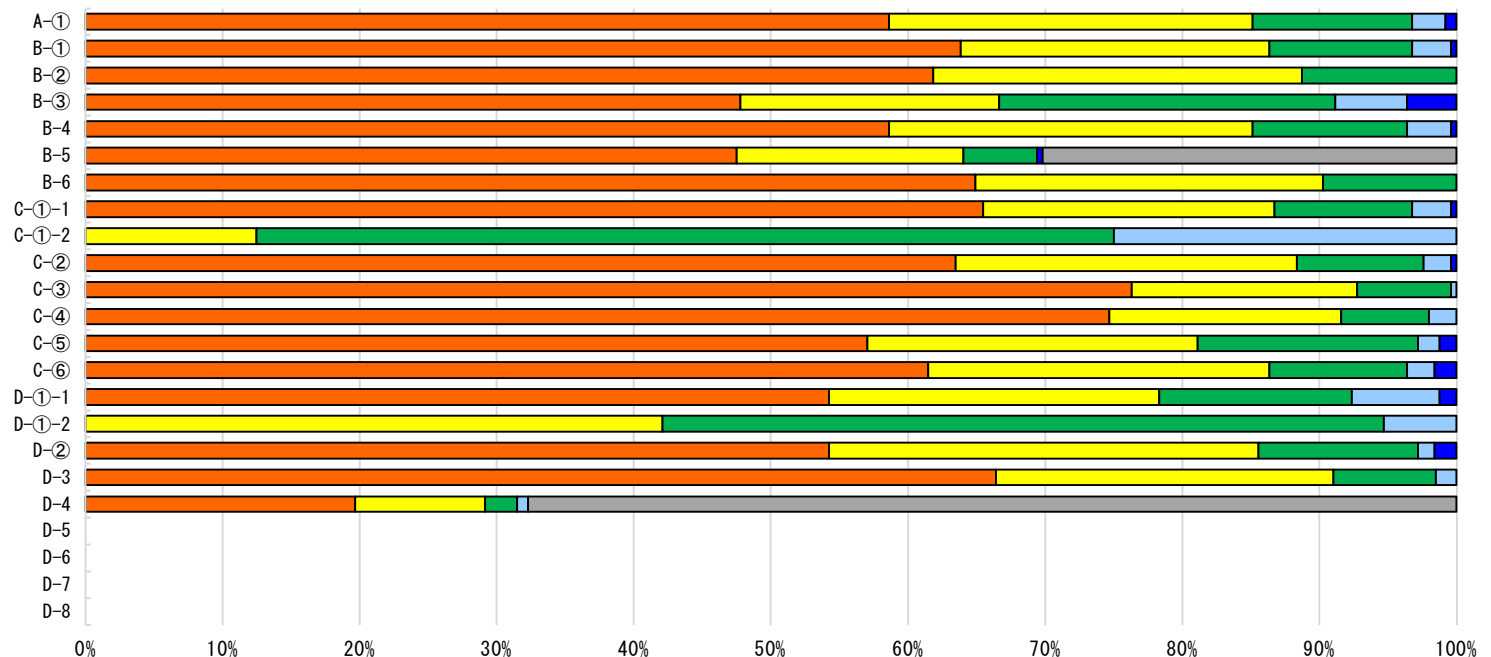
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	141	---	---
22生	51	---	---
21生	43	---	---
20生以前	14	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	249	1,262	20%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	146	66	29	6	2	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	159	56	26	7	1	0	4.5	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	154	67	28	0	0	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	119	47	61	13	9	0	4.0	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	146	66	28	8	1	0	4.4	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	115	40	13	0	1	73	4.6	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	87	34	13	0	0	0	4.6	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	163	53	25	7	1	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 5	少し遅い 2	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	158	62	23	5	1	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	190	41	17	1	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	186	42	16	5	0	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	142	60	40	4	3	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	153	62	25	5	4	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	135	60	35	16	3	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 8	少し高い 10	少し低い 1	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	135	78	29	3	4	0	4.4	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	89	33	10	2	0	0	4.6	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	25	12	3	1	0	86	4.5	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	フランス語・中国語学科共通

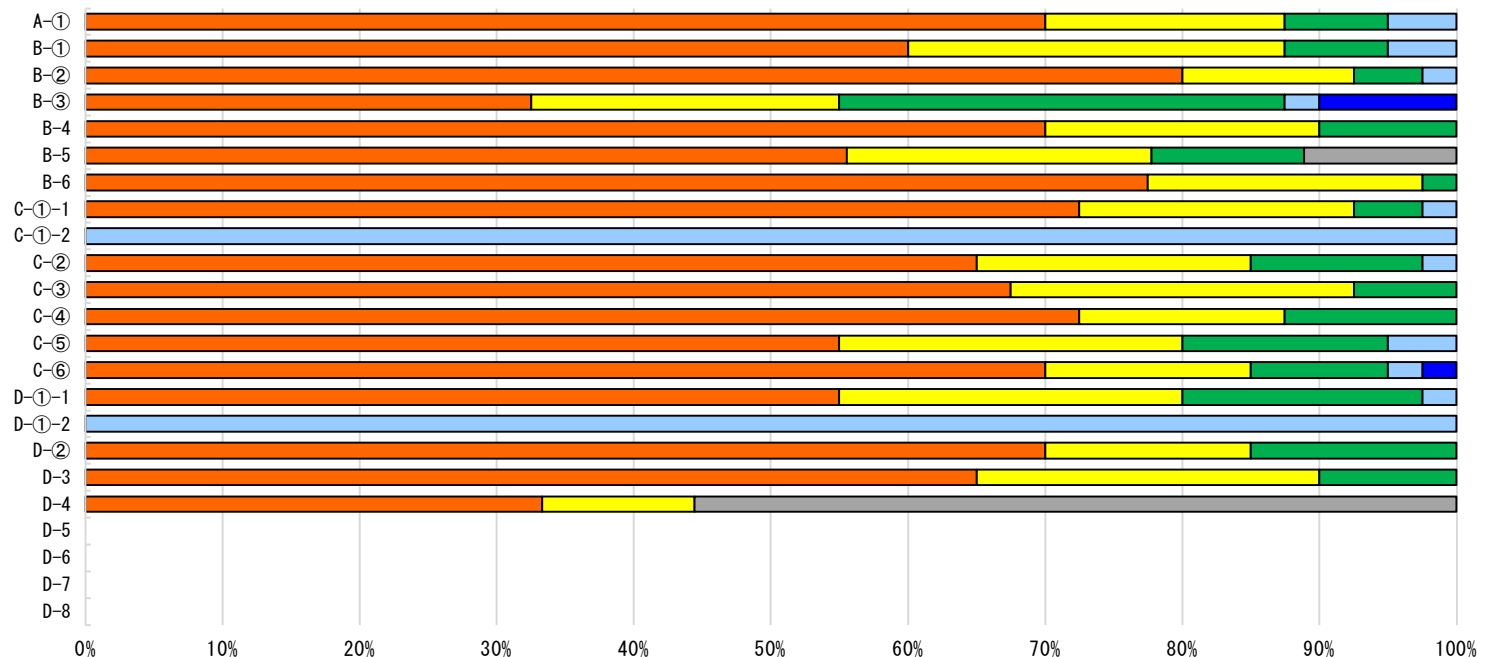
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	31	---	---
22生	0	---	---
21生	7	---	---
20生以前	1	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	40	144	28%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	28	7	3	2	0	0	4.5	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	24	11	3	2	0	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	32	5	2	1	0	0	4.7	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	13	9	13	1	4	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	28	8	4	0	0	0	4.6	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	5	2	1	0	0	1	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	31	8	1	0	0	0	4.8	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	29	8	2	1	0	0	4.6	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 0	少し遅い 1	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	26	8	5	1	0	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	27	10	3	0	0	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	29	6	5	0	0	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	22	10	6	2	0	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	28	6	4	1	1	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	22	10	7	1	0	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 0	少し低い 1	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	28	6	6	0	0	0	4.6	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	26	10	4	0	0	0	4.6	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	3	1	0	0	0	5	4.8	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■とてもそう思う (5)
 ■ややそう思う (4)
 ■普通 (3)
 ■あまりそう思わない (2)
 ■そうは思わない (1)
 ■未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	グローバルビジネス学科

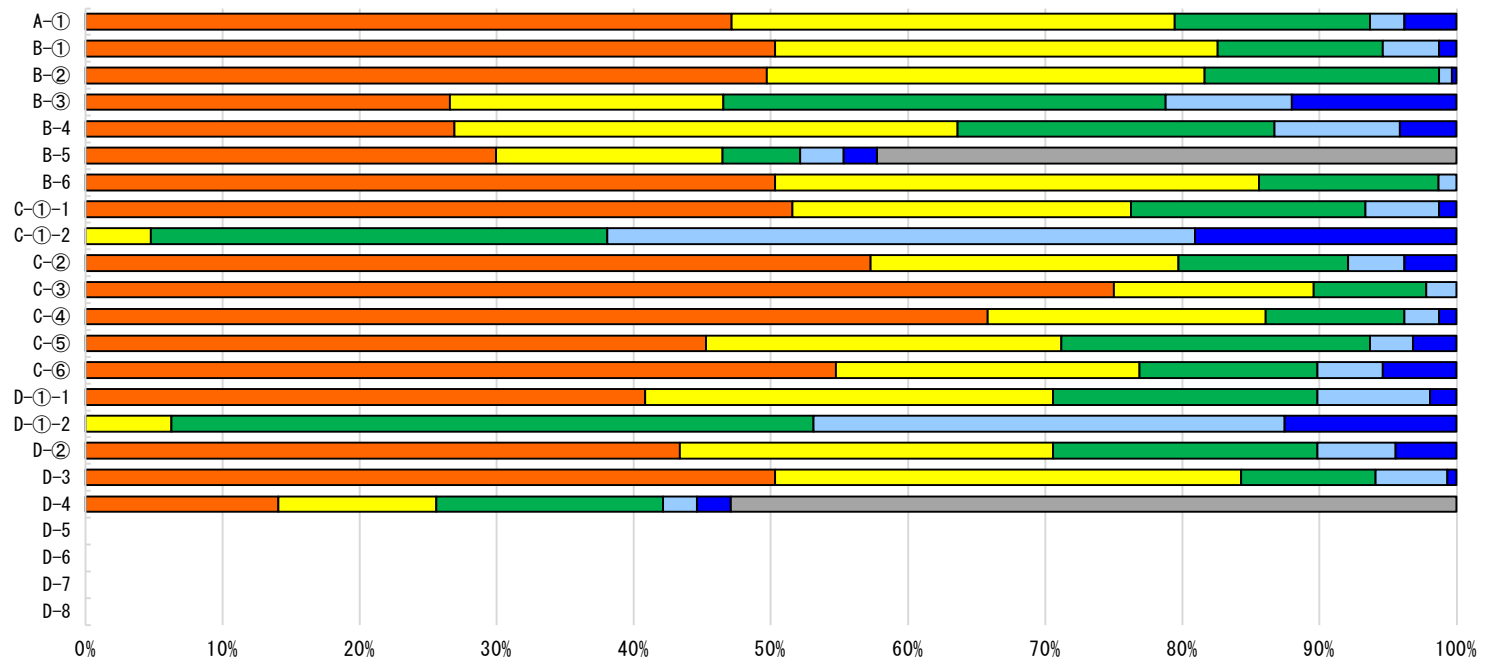
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	179	---	---
22生	116	---	---
21生	17	---	---
20生以前	4	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	316	1,813	17%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	149	102	45	8	12	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	159	102	38	13	4	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	157	101	54	3	1	0	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	84	63	102	29	38	0	3.4	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	85	116	73	29	13	0	3.7	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	85	47	16	9	7	120	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	77	54	20	2	0	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	163	78	54	17	4	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 7	少し遅い 9	遅すぎる 4	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	181	71	39	13	12	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	237	46	26	7	0	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	208	64	32	8	4	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	143	82	71	10	10	0	4.1	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	173	70	41	15	17	0	4.2	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	129	94	61	26	6	0	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 2	少し高い 15	少し低い 11	低すぎる 4	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	137	86	61	18	14	0	4.0	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	77	52	15	8	1	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	17	14	20	3	3	64	3.7	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	現代英語学科

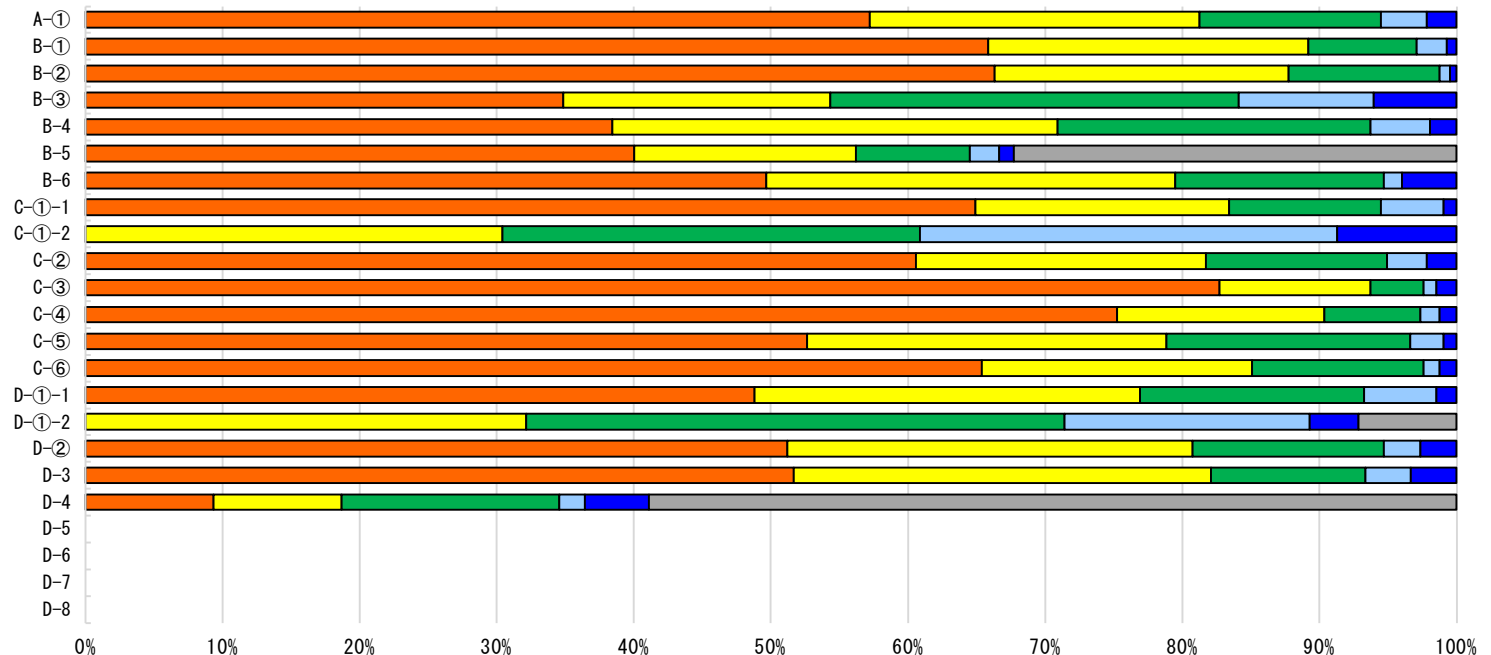
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	266	---	---
22生	99	---	---
21生	33	---	---
20生以前	18	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	416	1,407	30%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	238	100	55	14	9	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	274	97	33	9	3	0	4.5	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	276	89	46	3	2	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	145	81	124	41	25	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	160	135	95	18	8	0	4.0	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	149	60	31	8	4	120	4.4	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	75	45	23	2	6	0	4.2	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	270	77	46	19	4	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 7	少し早い 7	少し遅い 7	遅すぎる 2	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	252	88	55	12	9	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	344	46	16	4	6	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	313	63	29	6	5	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	219	109	74	10	4	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	272	82	52	5	5	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	203	117	68	22	6	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 9	少し高い 11	少し低い 5	低すぎる 1	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	213	123	58	11	11	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	78	46	17	5	5	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	10	10	17	2	5	63	3.4	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	国際教養学科

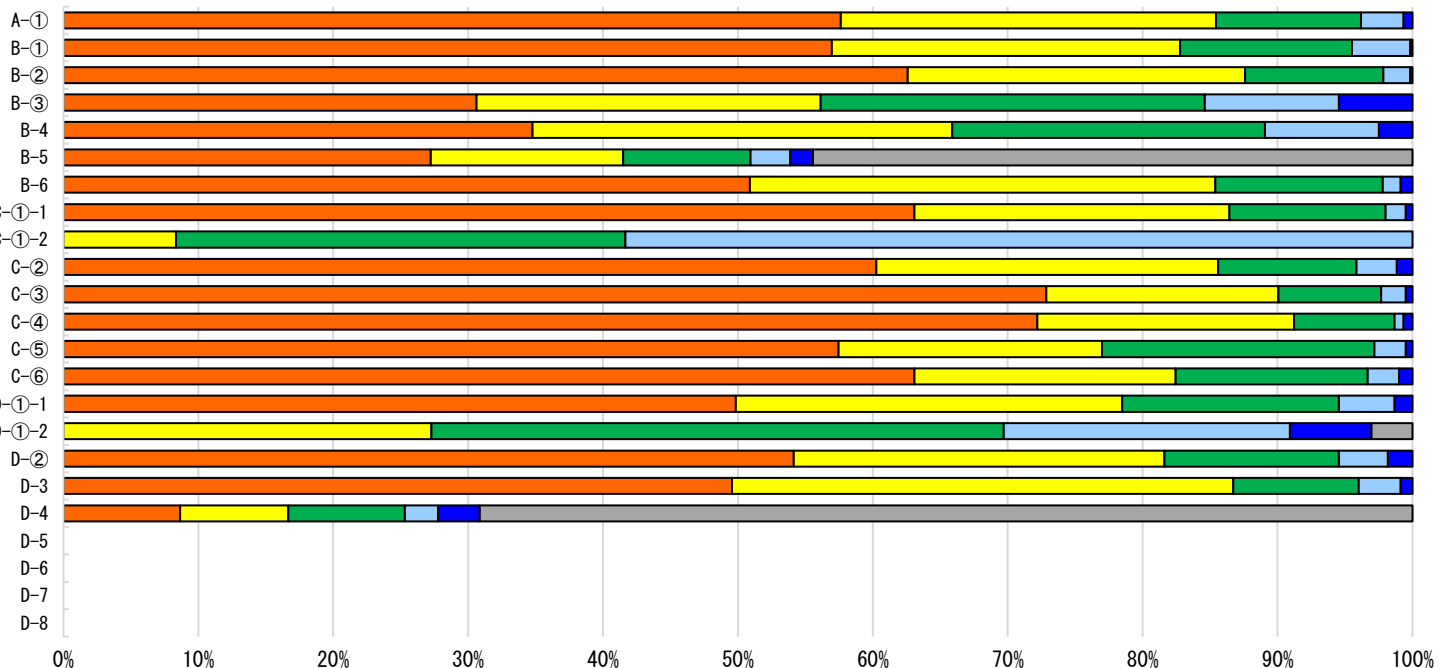
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	377	---	---
22生	174	---	---
21生	29	---	---
20生以前	23	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	604	2,218	27%

## 質問別回答集計表 (人数と平均値)

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	348	168	65	19	4	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	344	156	77	26	1	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	378	151	62	12	1	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	185	154	172	60	33	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	210	188	140	51	15	0	3.9	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	147	77	51	16	9	240	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	115	78	28	3	2	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	381	141	70	9	3	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 4	少し遅い 7	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	364	153	62	18	7	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	440	104	46	11	3	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	436	115	45	4	4	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	347	118	122	14	3	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	381	117	86	14	6	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	301	173	97	25	8	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 9	少し高い 14	少し低い 7	低すぎる 2	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	327	166	78	22	11	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力 (話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力の いずれか、あるいはその組合せ)を伸ばすことが できた。	112	84	21	7	2	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した 言語の文化への興味を持つことができた。	14	13	14	4	5	112	3.5	4.1
D-5 この授業では、S.A. (授業アシスタント) 等による 授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・ 増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが 好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)   
 ■ ややそう思う (4)   
 ■ 普通 (3)   
 ■ あまりそう思わない (2)   
 ■ そうは思わない (1)   
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	現代国際学部共通

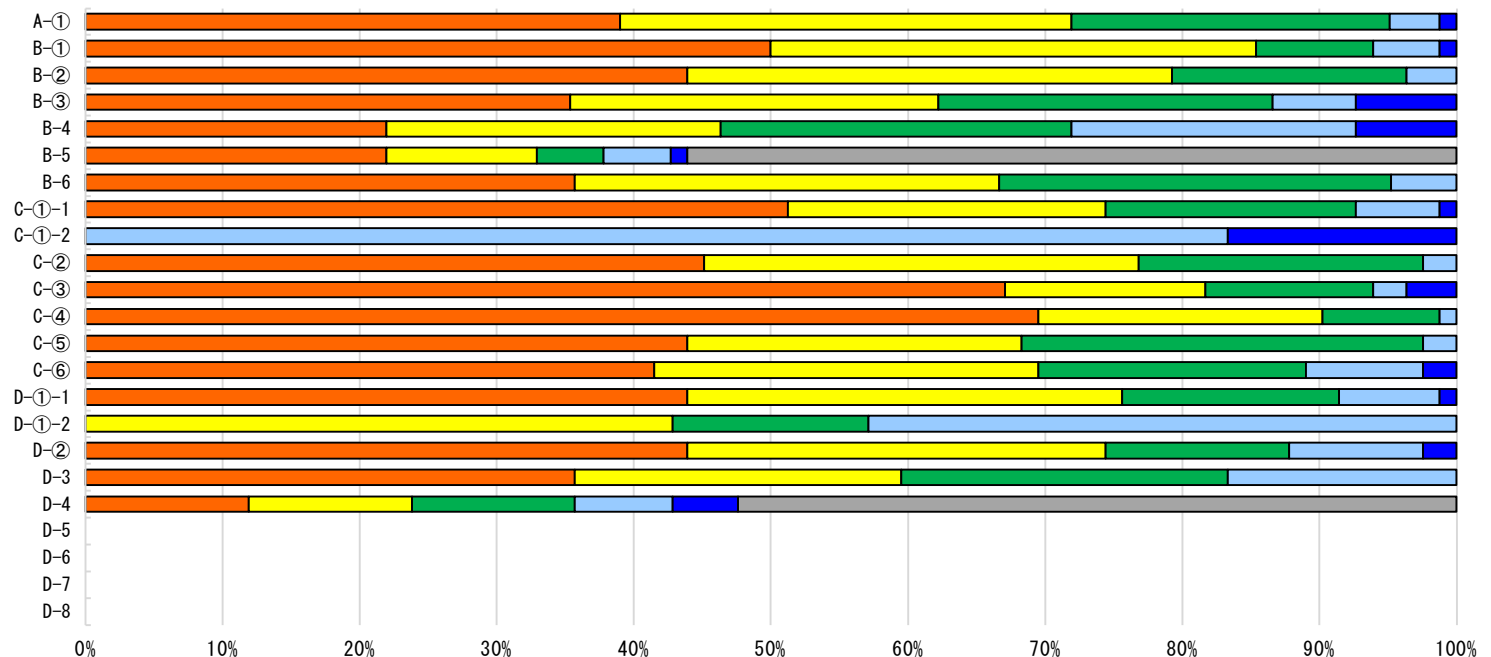
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	15	---	---
22生	52	---	---
21生	10	---	---
20生以前	5	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	82	453	18%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	32	27	19	3	1	0	4.0	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	41	29	7	4	1	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	36	29	14	3	0	0	4.2	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	29	22	20	5	6	0	3.8	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	18	20	21	17	6	0	3.3	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	18	9	4	4	1	46	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	15	13	12	2	0	0	4.0	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	42	19	15	5	1	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 0	少し遅い 5	遅すぎる 1	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	37	26	17	2	0	0	4.2	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	55	12	10	2	3	0	4.4	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	57	17	7	1	0	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	36	20	24	2	0	0	4.1	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	34	23	16	7	2	0	4.0	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	36	26	13	6	1	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 3	少し高い 1	少し低い 3	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	36	25	11	8	2	0	4.0	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	15	10	10	7	0	0	3.8	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	5	5	5	3	2	22	3.4	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)  
 ■ ややそう思う (4)  
 ■ 普通 (3)  
 ■ あまりそう思わない (2)  
 ■ そうは思わない (1)  
 ■ 未答





# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界共生学科

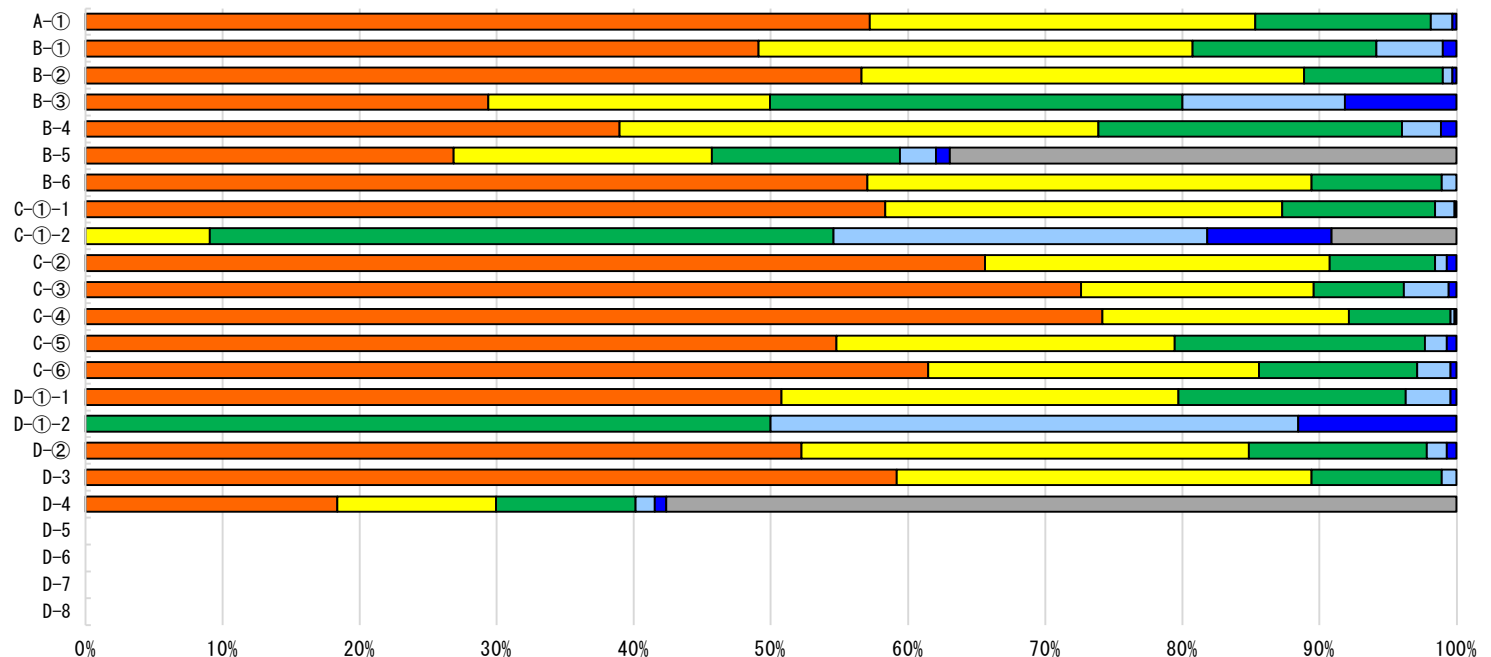
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	383	---	---
22生	144	---	---
21生	103	---	---
20生以前	71	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	701	1,651	42%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	401	197	90	11	2	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	344	222	94	34	7	0	4.2	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	397	226	71	5	2	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	206	144	211	83	57	0	3.5	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	273	245	155	20	8	0	4.1	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	184	129	94	18	7	253	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	211	120	35	4	0	0	4.5	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	409	203	78	10	1	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 5	少し遅い 3	遅すぎる 1	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	460	176	54	6	5	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	509	119	46	23	4	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	520	126	52	2	1	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	384	173	128	11	5	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	431	169	81	17	3	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	356	203	116	23	3	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 13	少し低い 10	低すぎる 3	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	366	229	91	10	5	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	219	112	35	4	0	0	4.5	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	65	41	36	5	3	204	4.1	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■とてもそう思う (5)
 ■ややそう思う (4)
 ■普通 (3)
 ■あまりそう思わない (2)
 ■そうは思わない (1)
 ■未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界教養学科（養）

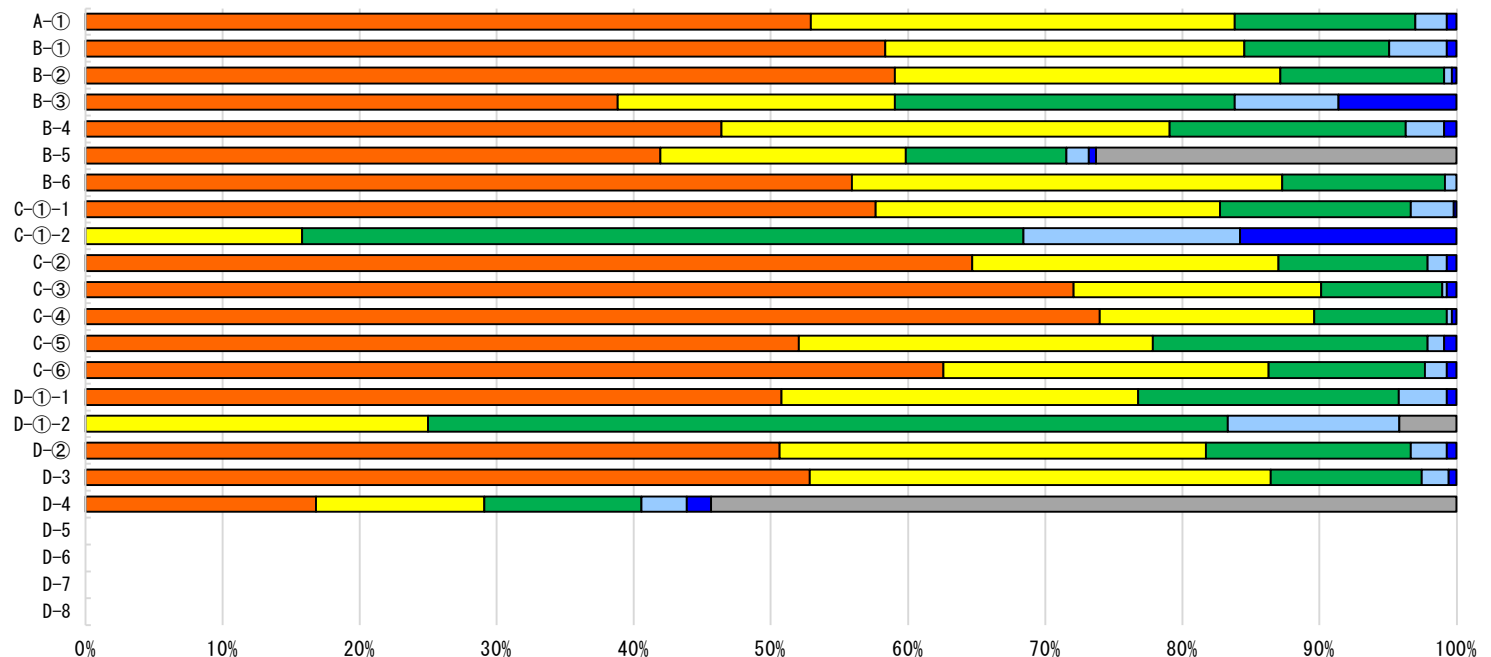
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	315	---	---
22生	145	---	---
21生	50	---	---
20生以前	57	---	---
その他	2	---	---
不明	0	---	---
合計	569	1,676	34%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	301	176	75	13	4	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	332	149	60	24	4	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	336	160	68	3	2	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	221	115	141	43	49	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	264	186	98	16	5	0	4.2	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	230	98	64	9	3	144	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	198	111	42	3	0	0	4.4	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	328	143	79	18	1	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 3	少し早い 10	少し遅い 3	遅すぎる 3	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	368	127	62	8	4	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	410	103	50	2	4	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	421	89	55	2	2	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	296	147	114	7	5	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	356	135	65	9	4	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	289	148	108	20	4	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 6	少し高い 14	少し低い 3	低すぎる 0	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	288	177	85	15	4	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	187	119	39	7	2	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	56	41	38	11	6	181	3.9	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)  
 ■ ややそう思う (4)  
 ■ 普通 (3)  
 ■ あまりそう思わない (2)  
 ■ そうは思わない (1)  
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	国際日本学科

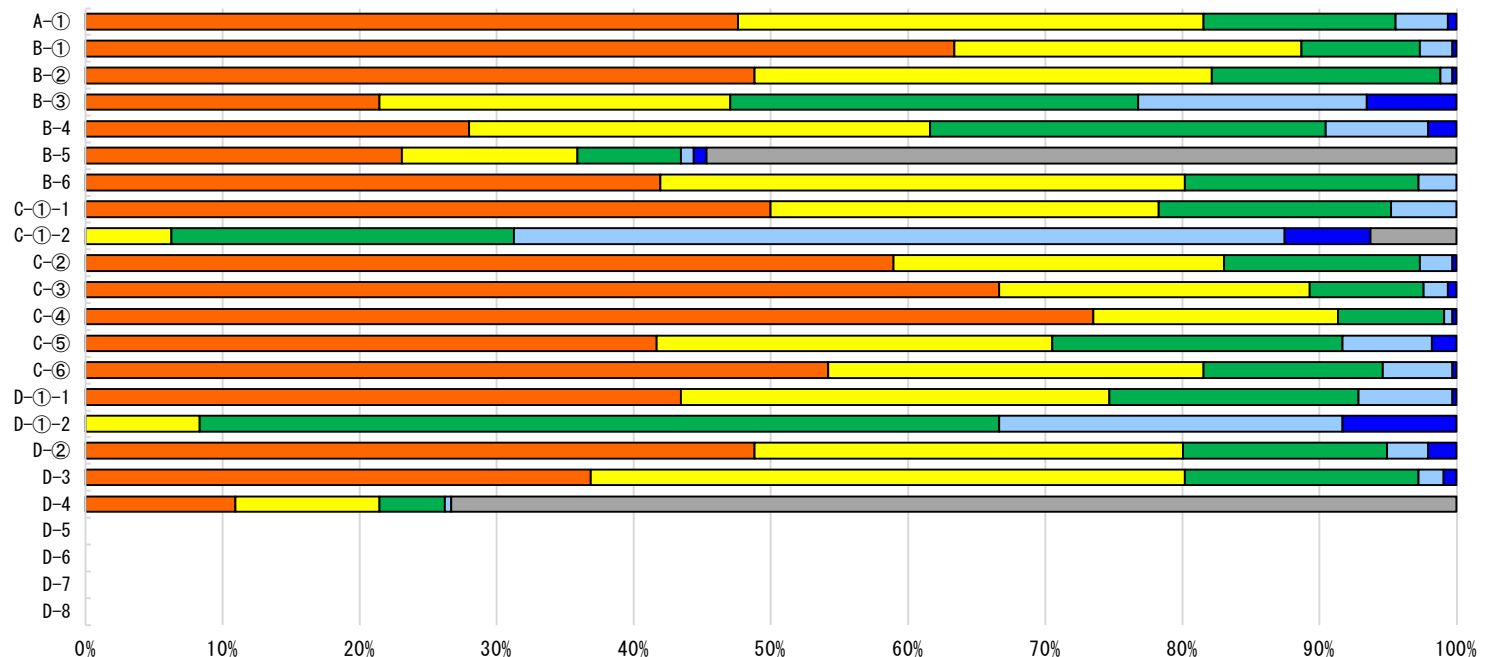
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	94	---	---
22生	139	---	---
21生	86	---	---
20生以前	15	---	---
その他	2	---	---
不明	0	---	---
合計	336	1,386	24%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	160	114	47	13	2	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	213	85	29	8	1	0	4.5	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	164	112	56	3	1	0	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	72	86	100	56	22	0	3.4	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	94	113	97	25	7	0	3.8	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	76	42	25	3	3	180	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	91	83	37	6	0	0	4.2	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	168	95	57	16	0	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 4	少し遅い 9	遅すぎる 1	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	198	81	48	8	1	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	224	76	28	6	2	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	247	60	26	2	1	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	140	97	71	22	6	0	4.0	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	182	92	44	17	1	0	4.3	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	146	105	61	23	1	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 2	少し高い 14	少し低い 6	低すぎる 2	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	164	105	50	10	7	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	80	94	37	4	2	0	4.1	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	23	22	10	1	0	154	4.2	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界教養学部共通

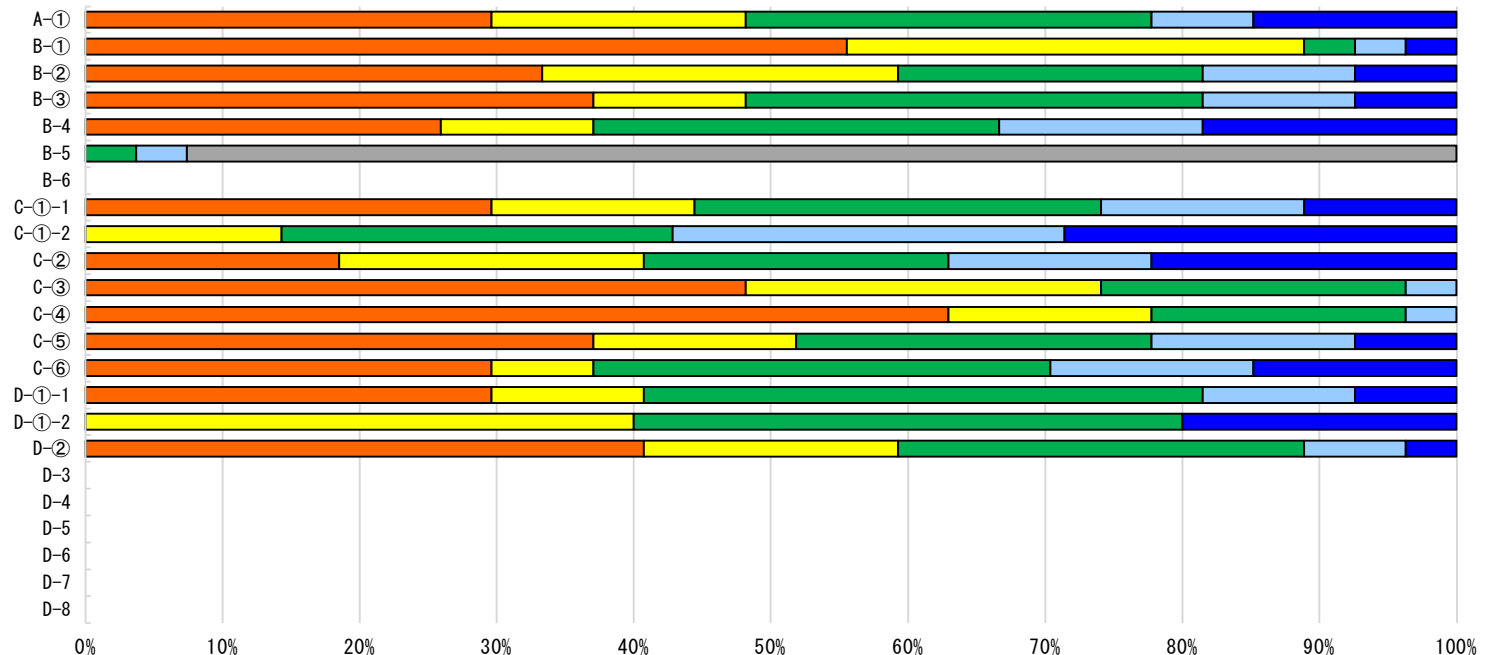
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	27	---	---
22生	0	---	---
21生	0	---	---
20生以前	0	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	27	105	26%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	8	5	8	2	4	0	3.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	15	9	1	1	1	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	9	7	6	3	2	0	3.7	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	10	3	9	3	2	0	3.6	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	7	3	8	4	5	0	3.1	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	0	0	1	1	0	25	2.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	8	4	8	4	3	0	3.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 2	少し遅い 2	遅すぎる 2	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	5	6	6	4	6	0	3.0	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	13	7	6	1	0	0	4.2	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	17	4	5	1	0	0	4.4	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	10	4	7	4	2	0	3.6	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	8	2	9	4	4	0	3.2	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	8	3	11	3	2	0	3.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 2	少し高い 2	少し低い 0	低すぎる 1	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	11	5	8	2	1	0	3.9	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■とてもそう思う (5)
 ■ややそう思う (4)
 ■普通 (3)
 ■あまりそう思わない (2)
 ■そうは思わない (1)
 ■未答



集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	4学部共通

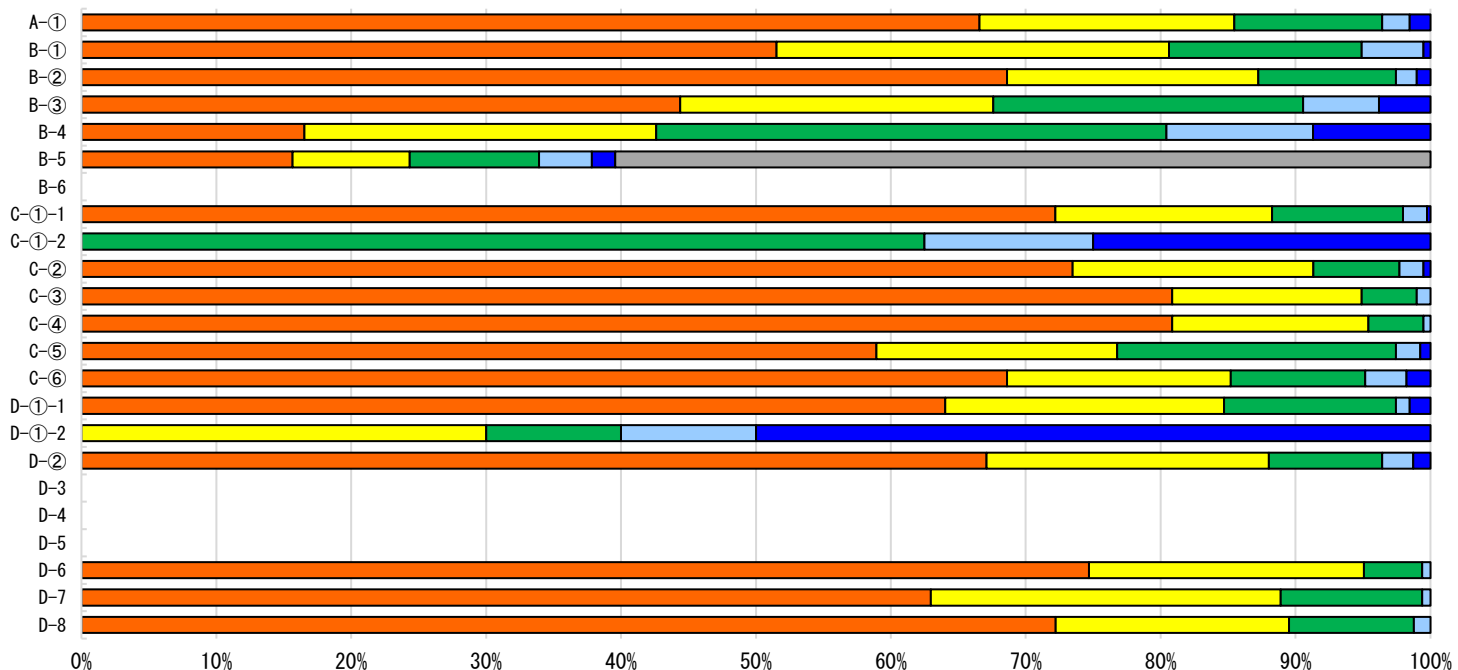
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	299	---	---
22生	82	---	---
21生	3	---	---
20生以前	8	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	392	819	48%

質問別回答集計表 (人数と平均値)

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	261	74	43	8	6	0	4.5	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	202	114	56	18	2	0	4.3	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	269	73	40	6	4	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	174	91	90	22	15	0	4.0	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	38	60	87	25	20	0	3.3	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	36	20	22	9	4	139	3.8	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	283	63	38	7	1	0	4.6	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		0	5	1	2	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	288	70	25	7	2	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	317	55	16	4	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	317	57	16	2	0	0	4.8	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	231	70	81	7	3	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	269	65	39	12	7	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	251	81	50	4	6	0	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		3	1	1	5	0		
D-② この授業に大変興味を持たた。	263	82	33	9	5	0	4.5	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力 (話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力の いずれか、あるいはその組合せ)を伸ばすことが できた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した 言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A. (授業アシスタント) 等による 授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・ 増進することに役立った。	121	33	7	1	0	0	4.7	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	102	42	17	1	0	0	4.5	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが 好きになった。	117	28	15	2	0	0	4.6	4.6

<評価帯グラフ>

■とてもそう思う (5) ■ややそう思う (4) ■普通 (3) ■あまりそう思わない (2) ■そうは思わない (1) ■未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	CLED

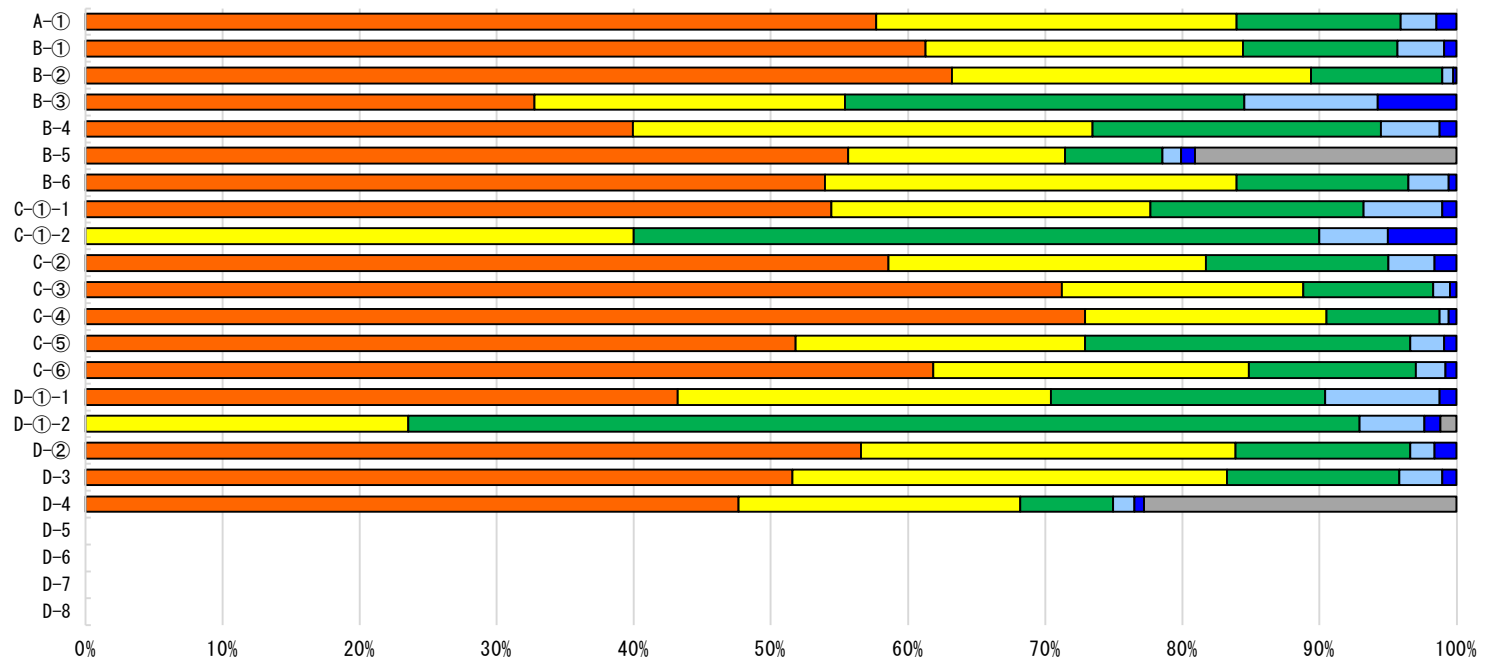
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	464	---	---
22生	273	---	---
21生	87	---	---
20生以前	57	---	---
その他	5	---	---
不明	0	---	---
合計	886	3,515	25%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	511	233	106	23	13	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	543	205	100	30	8	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	560	232	85	7	2	0	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	290	201	258	86	51	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	354	297	186	38	11	0	4.1	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	493	140	63	12	9	169	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	478	266	111	26	5	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	482	206	138	51	9	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 24	少し早い 30	少し遅い 3	遅すぎる 3	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	519	205	118	30	14	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	631	156	84	11	4	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	646	156	73	6	5	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	459	187	210	22	8	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	548	204	108	19	7	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	383	241	177	74	11	0	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 20	少し高い 59	少し低い 4	低すぎる 1	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	501	242	113	16	14	0	4.4	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	457	281	111	28	9	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	422	182	60	14	6	202	4.5	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	CLAD

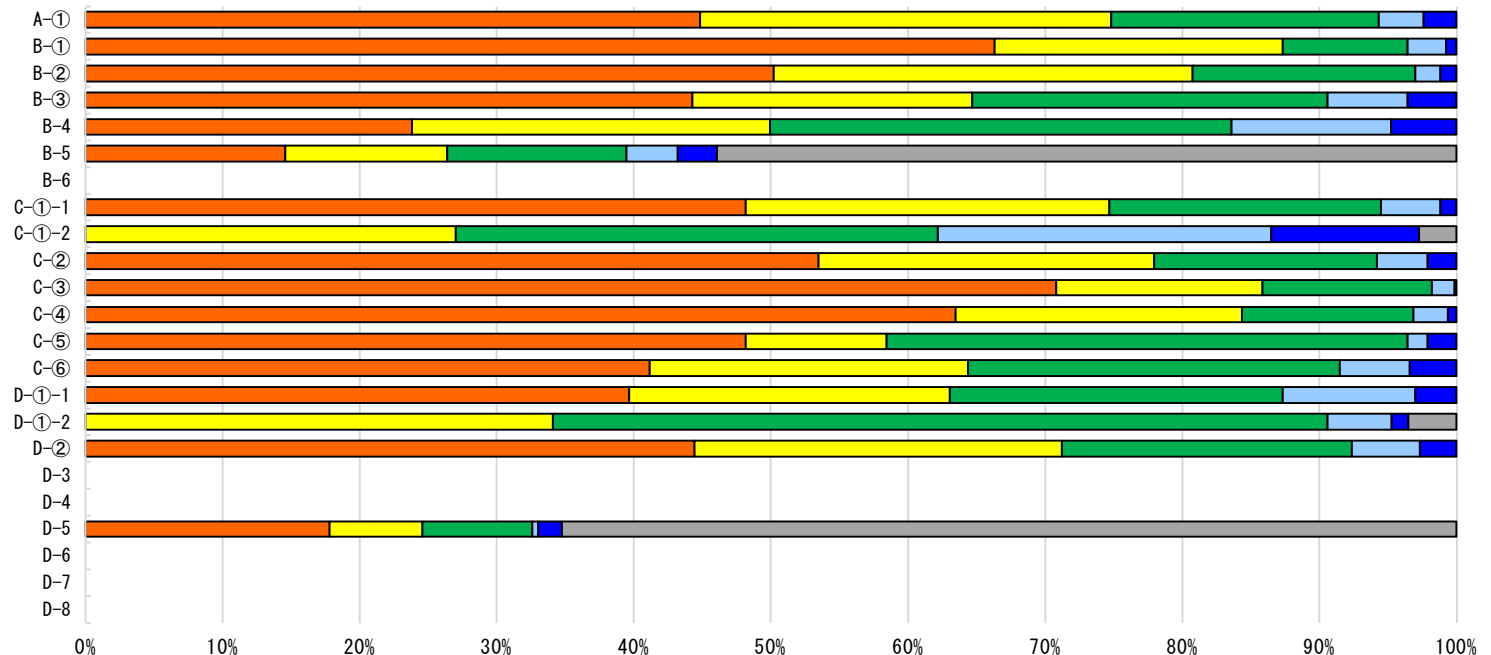
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	211	---	---
22生	301	---	---
21生	97	---	---
20生以前	62	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	671	3,927	17%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	301	201	131	22	16	0	4.1	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	445	141	61	19	5	0	4.5	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	337	205	109	12	8	0	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	297	137	174	39	24	0	4.0	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	160	175	226	78	32	0	3.5	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	98	79	88	25	19	362	3.7	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	323	178	133	29	8	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 10	少し早い 13	少し遅い 9	遅すぎる 4	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	359	164	109	25	14	0	4.2	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	475	101	83	11	1	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	426	140	84	17	4	0	4.4	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	323	69	255	10	14	0	4.0	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	276	156	182	34	23	0	3.9	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	266	157	163	65	20	0	3.9	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 29	少し高い 48	少し低い 4	低すぎる 1	未答 3		
D-② この授業に大変興味を持てた。	298	180	142	33	18	0	4.1	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	42	16	19	1	4	154	4.1	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	教職センター

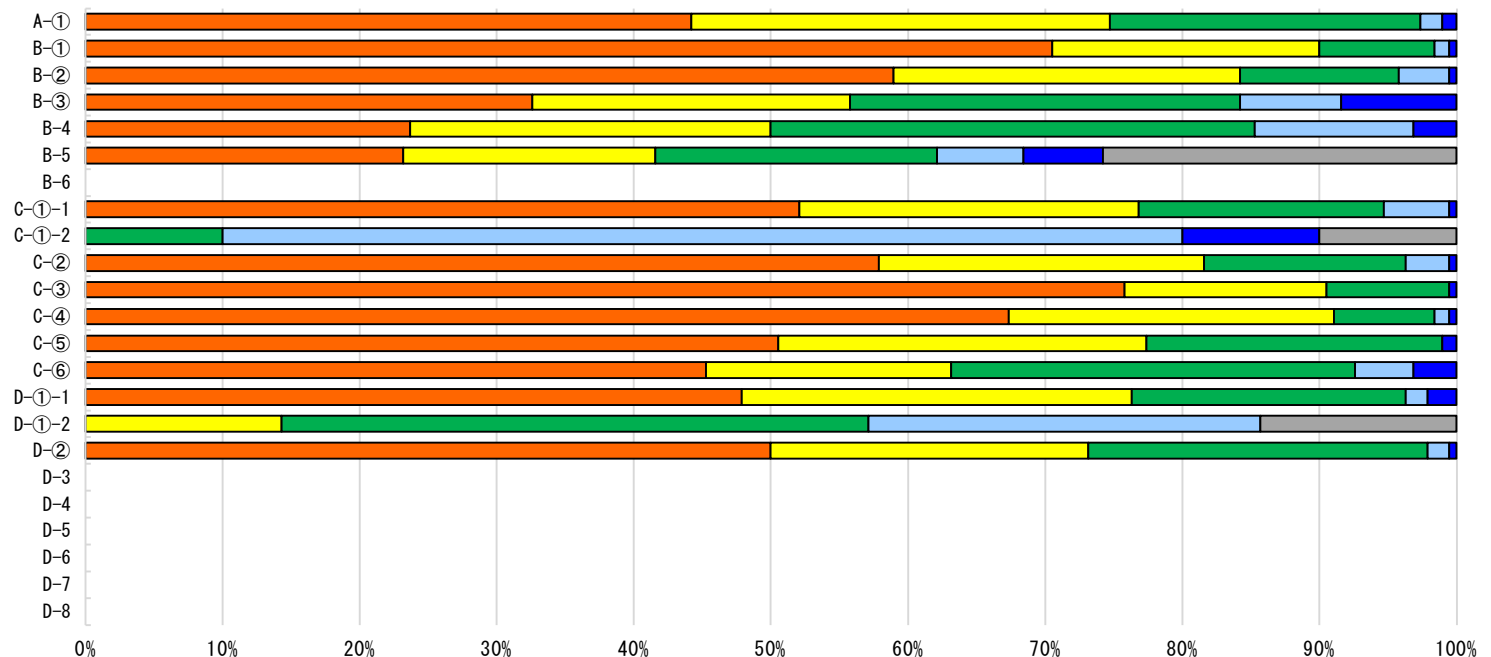
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	33	---	---
22生	91	---	---
21生	31	---	---
20生以前	32	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	190	973	20%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	84	58	43	3	2	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	134	37	16	2	1	0	4.6	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	112	48	22	7	1	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	62	44	54	14	16	0	3.6	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	45	50	67	22	6	0	3.6	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	44	35	39	12	11	49	3.6	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	99	47	34	9	1	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 1	少し遅い 7	遅すぎる 1	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	110	45	28	6	1	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	144	28	17	0	1	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	128	45	14	2	1	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	96	51	41	0	2	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	86	34	56	8	6	0	4.0	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	91	54	38	3	4	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 1	少し高い 3	少し低い 2	低すぎる 0	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	95	44	47	3	1	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答





# 集計区分別評価結果

集計単位	学部、大学院、別科
集計名称	学部

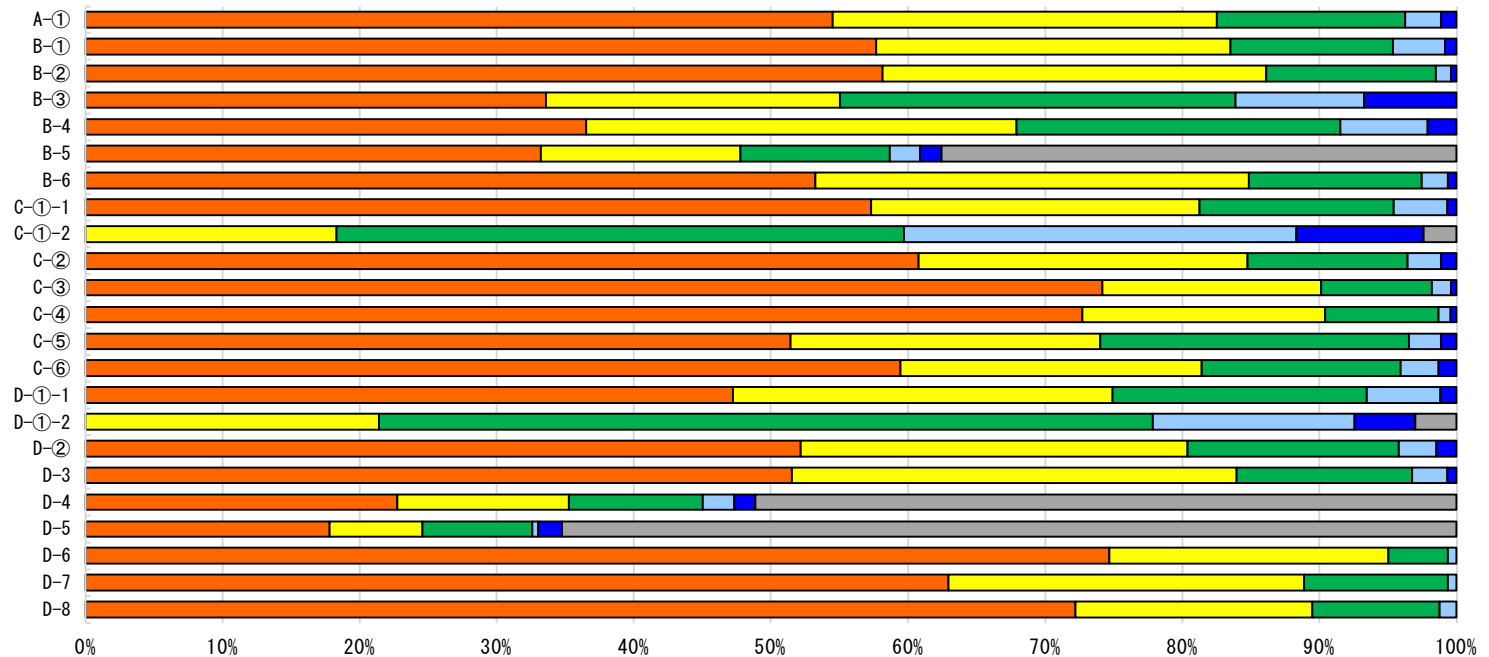
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	4,302	---	---
22生	2,375	---	---
21生	917	---	---
20生以前	614	---	---
その他	20	---	---
不明	0	---	---
合計	8,228	29,481	28%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	4,484	2,307	1,130	214	93	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	4,746	2,124	976	313	69	0	4.4	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	4,785	2,301	1,019	91	32	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	2,764	1,762	2,374	776	552	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	2,947	2,530	1,905	514	170	0	3.9	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	2,566	1,128	841	170	120	2,904	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	2,075	1,233	490	75	24	0	4.3	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	4,716	1,972	1,163	322	55	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 69	少し早い 156	少し遅い 108	遅すぎる 35	未答 9		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	5,000	1,974	960	203	91	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	6,101	1,317	663	114	33	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	5,984	1,456	678	76	34	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	4,232	1,859	1,851	193	93	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	4,894	1,804	1,194	229	107	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	3,885	2,280	1,526	442	95	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 115	少し高い 303	少し低い 79	低すぎる 24	未答 16		
D-② この授業に大変興味を持てた。	4,294	2,320	1,268	228	118	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	2,008	1,264	500	99	26	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	810	446	347	82	54	1,821	4.1	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	42	16	19	1	4	154	4.1	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	121	33	7	1	0	0	4.7	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	102	42	17	1	0	0	4.5	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	117	28	15	2	0	0	4.6	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)  
 ■ ややそう思う (4)  
 ■ 普通 (3)  
 ■ あまりそう思わない (2)  
 ■ そうは思わない (1)  
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	大学院

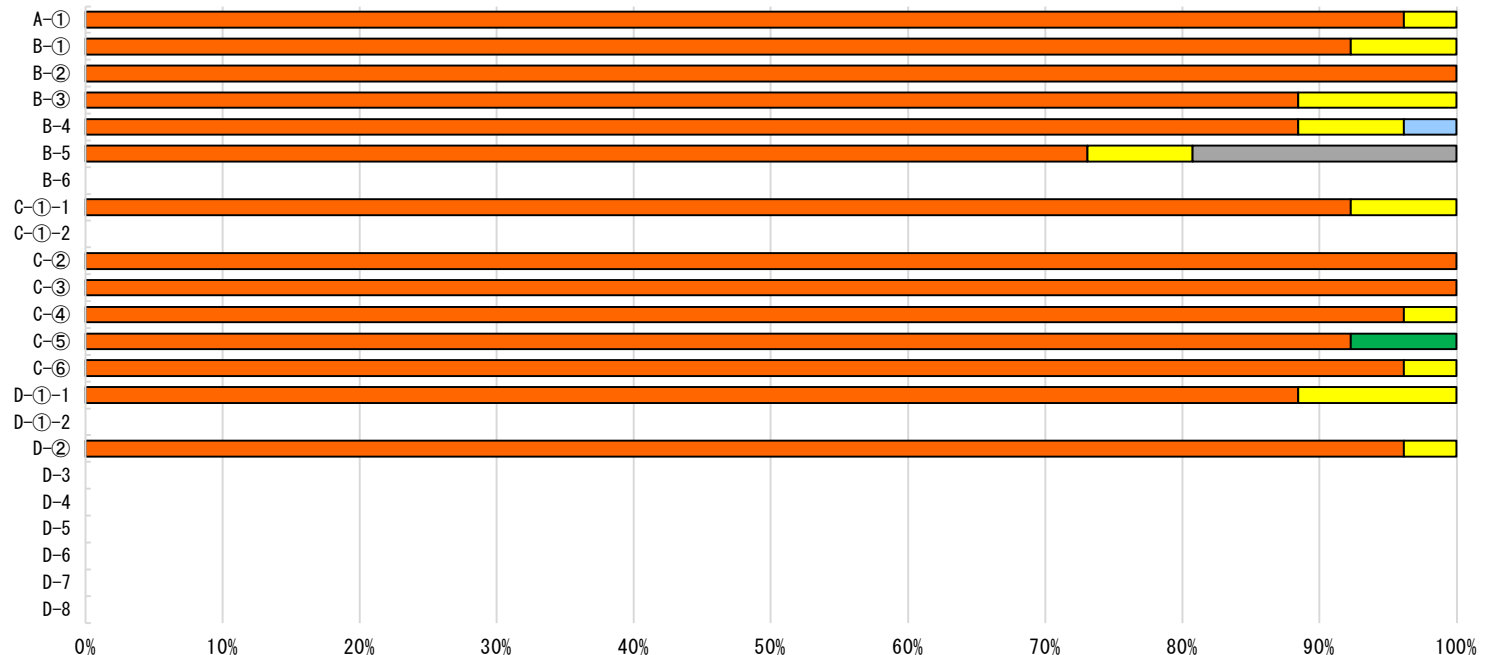
入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	24	---	---
22生	0	---	---
21生	0	---	---
20生以前	0	---	---
その他	2	---	---
不明	0	---	---
合計	26	51	51%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	25	1	0	0	0	0	5.0	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	24	2	0	0	0	0	4.9	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	26	0	0	0	0	0	5.0	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	23	3	0	0	0	0	4.9	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	23	2	0	1	0	0	4.8	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	19	2	0	0	0	5	4.9	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	24	2	0	0	0	0	4.9	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	26	0	0	0	0	0	5.0	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	26	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	25	1	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	24	0	2	0	0	0	4.8	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	25	1	0	0	0	0	5.0	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	23	3	0	0	0	0	4.9	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	25	1	0	0	0	0	5.0	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答



# 集計区分別評価結果

集計単位	学科 別科
集計名称	

入学年度	回答数	受講者数	回収率
23生	77	---	---
22生	20	---	---
21生	2	---	---
20生以前	19	---	---
その他	115	---	---
不明	0	---	---
合計	233	522	45%

## 質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	128	77	21	4	3	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	111	86	22	10	4	0	4.2	4.4
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	147	72	14	0	0	0	4.6	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	131	62	35	4	1	0	4.4	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	97	93	38	4	1	0	4.2	3.9
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	110	26	12	6	1	78	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.3
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	111	76	27	17	2	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 2	少し早い 8	少し遅い 6	遅すぎる 2	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	146	57	26	4	0	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	182	44	6	1	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	178	47	5	3	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	133	71	26	2	1	0	4.4	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	157	49	23	4	0	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	123	71	19	18	2	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 3	少し高い 11	少し低い 3	低すぎる 2	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	148	64	16	4	1	0	4.5	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

## <評価帯グラフ>

■ とてもそう思う (5)
 ■ ややそう思う (4)
 ■ 普通 (3)
 ■ あまりそう思わない (2)
 ■ そうは思わない (1)
 ■ 未答

